

## 令和3年度 秦野市食育推進委員会（書面会議）内容について

### 1 秦野市食育推進委員会の趣旨説明（資料1）

- ・ 本委員会は、食育基本法に基づき、食育推進計画の策定及び推進に関することを協議、検討する場として、秦野市附属機関の設置等に関する条例で、組織及び運営について必要な事項を定め、設置しています。
- ・ 委員は15名以内とし、食育に関わる各機関から御推薦いただいた委員と公募市民委員により構成されています。
- ・ 任期は2年ですが、任期内の継続が難しくなった場合には、各機関から後任委員の御推薦をお願いしています。
- ・ 本委員会は市の関係課により構成している食育推進庁内会議を踏まえて開催しています。

### 2 議題(1)「第2次はだの生涯元気プラン（秦野市食育推進計画）」の最終評価について（資料2、3）

- ・ 本委員会の協議を経て、平成24年度に「はだの生涯元気プラン」が策定され、平成28年度に改定した「第2次はだの生涯元気プラン」を5年間の計画で推進してまいりました。令和2年度及び最終年度として、第2次プランの総合評価を行います。

#### 「第2次はだの生涯元気プラン（秦野市食育推進計画）取組状況一覧表（資料2）」

- ・ この一覧表は関係課等の取組状況を集約したものです。全64事業となっていますが、このうち2-5ページ2-(3)-⑧「社員食堂における地場産物や郷土料理等導入の促進」は他事業に移行しているため、令和2年度の実績の掲載はありません。
- ・ 令和2年度は、新型感染症拡大防止対策として、事業の縮小または中止により十分な実績に結びつかなかった傾向が見られます。その中でも、事業内容の変更や個別対応への切り替え、紙媒体の活用、動画配信やWeb講習会等のインターネットを活用した取組みなど、各課・各施設が適切に判断し、推進に努めました。
- ・ 【基本目標1 からだ】では、乳幼児健診や親子食育推進事業、保育

園、こども園、幼稚園、学校等において家庭における食育の普及啓発等を行いました。成人の食生活の改善や高齢者の低栄養の予防についても推進を行いました。

- ・ 【基本目標2 こころ】では、給食やこども食堂、デイサービスでの共食や農業体験を通して食の楽しさを共有し、食に対する興味や関心を高める取り組みをしました。また、地場産物や郷土料理を給食に取り入れることや、イベントや教室等を通じて伝統行事や食文化への理解や関心を高める取り組みをしました。
- ・ 【基本目標3 暮らし】では、学校給食における地場産物利用の促進や、登録認定制度や農産物応援サポーター制度の推進を図り、地産地消を推進しました。また、幼稚園、こども園、学校やイベントを通して食と環境について考える機会の提供や、体験を推進する取り組みを行いました。食育を担うボランティアの人材育成と活動の支援等を行い、学校においては食に関する指導体制充実のためのネットワークを活用して食育の推進を図りました。

### 「第2次はだの生涯元気プラン(秦野市食育推進計画)の目標値の達成状況(資料3)」

- ・ 令和2年度達成状況では、目標を達成しているのは3項目、目標に近づいたのは4項目、目標から遠ざかったものは6項目、指標となる事業及び調査の中止をしたものが3項目でした。
- ・ 令和2年度は、新型コロナウイルス拡大防止対策として、事業の縮小または中止により十分な実績に結びつかなかった傾向が見られますが、各課・各施設が適切に判断し、推進に努めたことが評価されます。
- ・ 施策評価と計画の総合評価では、平成28年度から令和2年度までの5年間の取組の達成状況を平均化し、A～Dの4段階で評価を行いました。

#### 〈施策評価〉

- A：推進できた（達成度90%以上）
- B：概ね推進できた（達成度70%以上）
- C：推進したが、成果が得られなかった
- D：未着手、推進できなかった

- ・ 【基本目標1 からだ】では、目標に近づいた項目もありますが、策定時と比較しても数値が横ばいの項目が多く、半数以上がC評価となりました。
- ・ 指標1「朝食欠食の割合」では、朝食を食べない日がある理由（市民Webアンケート調査）において、「お腹が空いていない」に次いで、「食べる時間がない」「食べる習慣がない」が多くなっています。食習慣と生活リズムとは関連性が高く、幼児期の習慣は大人になってからの習慣の基礎となるため、幼児期からの望ましい食習慣や生活リズムを確立するための、継続した取り組みが今後も必要となります。
- ・ 【基本目標2 ころこ】では、令和2年度は目標から遠ざかった項目が多かったのですが、総合評価はA、B、Cとばらつきました。
- ・ 【基本目標3 ぐらし】では、令和2年度は目標から遠ざかった項目が一部ありますが、総合評価はAまたはBと全体的に達成できていました。

### 3 議題(2)「第3次はだの生涯元気プラン（秦野市食育推進計画）」について (参考資料1、第3次はだの生涯元気プラン（4月配布参照）)

- ・ 令和3年度より、「第3次はだの生涯元気プラン」の推進が開始されています。
- ・ 食習慣はすぐに効果が出るとは考えにくく、長期に取り組む必要があるため、第2次プランに引き続き、基本理念「食で育む元気なはだの」、3つの基本目標「からだ」「ころこ」「ぐらし」を推進していきます。また、第2次プランで重点プロジェクトとして取り組んだ朝食の普及啓発について大きな改善がみられなかったことや、朝食を食べることが健康な体、豊かな心や暮らしの基盤となることから、引き続き重点プロジェクトとして位置づけて取り組んでいきます。  
御意見がありましたらお願いいたします。

#### 4 その他（報告）

##### 参考資料 2

- ・ 食育通信 1 3 号を発行しました。保育園、こども園、幼稚園、小中学校を通じて、年長児及び小中学校の 1 年生へ配布しました。また、市の公共施設や乳幼児健診においても配布し、市ホームページにも掲載しています。コロナ禍で制限もありますが、定期的に食育情報を発信し、広く啓発を行っていきます。

「第2次はだの生涯元気プラン(秦野市食育推進計画)」取組状況等調査表

視点1:からだ 基本目標1 楽しく食べて健康なからだをつくります～生涯食育の推進～

- 施策の方向性
- 1 規則正しい食習慣の向上
  - 2 食を通じた健康意識の向上
  - 3 食品の安全性の確保

※本文P45～48参照

(1)規則正しい食習慣の向上

成果指標	計画策定時	目標値	H28年度実績 (抜粋)	H29年度実績	H30年度実績	R1年度実績	R2年度実績
① 朝食欠食の割合	3歳児	3.3%	0%	3.0%	3.7%	2.8%	3.6%
	小学生	5.5%	0%	5.8%	6.4%	6.8%	調査中止
	中学生	8.6%	0%	9.2%	11.5%	12.9%	調査中止
	20～30歳代男性	10.2%	10%以下	-	12.5% (H30web調査)	12.5% (H30web調査)	20.5% (R2web調査)

基本施策(事業名)	担当課 (実施主体)	対象	事業目標	令和2年度(指標に沿った内容で記入をお願いします)			令和3年度に向けての事業予定	その他	
				目標値と実績値	実施状況及び成果等	令和2年度事業評価			
1-1(1)②乳幼児健康診査における「家庭における食育」の普及啓発 保護者や子どもへの集団食育指導や個別相談にて子どもの発達の基本となる「早寝、早起き、朝ごはん」の生活習慣づくりの確認や食事の大切さを伝えます。	こども家庭支援課	乳幼児とその家族	就園に向け、幼児期の発達の基本となる「早寝、早起き、朝ごはん」の生活習慣づくりを進めるため、3歳6か月児健診集団食育指導を受診者全員に実施する。	【目標値】集団指導:72回 【実績値】実施回数 集団0回、個別201回	・感染症拡大防止のため、集団指導は休止し、個別相談のみ実施した。 ・4か月、7か月、2歳、3歳6か月児健診における内容や配布資料の変更を行い、生活リズムを見直すことや、朝食を食べることの大切さを伝え、食育の啓発を行った。 ・朝食のレシピや早寝、早起き、朝ごはんの効果をもとに、子ども園の給食メニューの組み合わせを紹介したりして、家庭における食育の支援を行った。	保護者の意識を高めるため、4か月健診や2歳児歯科健診において、「早寝、早起き、朝ごはん」の生活習慣づくりの大切さを周知したが、3歳児の朝食欠食率は前年に比べ減少した。	【課題】子どもの食生活は親の食生活の影響が大きく、大人の食生活についても見直していけるよう周知していく必要がある。 【対策】集団指導において生活リズムを整えていくことや「早寝、早起き、朝ごはん」の大切さについて伝えるとともに、子どもだけでなく、大人も含めた家族全体の食生活について考えていけるよう、支援していく。集団指導休止の間は個別相談を実施する。	方向性 継続 実施目標 集団指導及び個別相談において生活リズムを整えていくことの大切さと、「早寝、早起き、朝ごはん」について啓発する。 目標値 -	感染症拡大防止対策を講じながら実施し、集団指導再開までは個別で効率的な対応に努める。配布物や掲示物等を活用し、普及啓発を行う。
1-1(1)③親子食育推進事業等における「家庭における食育」の普及啓発 離乳食等の乳幼児教室にて、子どもや保護者が食の体験の大切さや適した食事や、おやつと一緒に楽しく食べる「共食」の体験をし、その大切さを伝えます。	こども家庭支援課	乳幼児とその家族	子どもの情緒や言葉の発達を促す食の役割を知ることで、家庭でも食育を実践できる意欲を育む。	【目標値】家でも実践できそうと思った人:100% 【実績値】97.2%	・各セミナーにおいて、子どもの情緒、言葉の発達を促す食の役割を伝え、家庭における食育を実践する意欲を育めるよう努めた。 ・感染症防止対策のため、参加人数の制限や席の間隔を空け、試食の提供は中止した。 ・離乳食の進め方に関する動画を市公式YouTubeを活用して公開し、情報発信について工夫に努めた。 ・離乳食セミナー:22回(うち個別相談6回)、参加者285人(うち個別相談15人) ・幼児食と歯のセミナー:9回、参加者91人 ・動画配信:1回、再生回数229回	子どもの食と育児の不安解消を図り、家庭で楽しく食育ができるよう支援に努め、食育を実践する意欲を育むことができた。 試食の提供を中止したことで味や柔らかさ温度などを体感してもらったことではできないが、サンプルを作成して見ってもらうことで、形状など疑問の解消につながった。	【課題】子どもの食と育児不安の解消を図り、家庭で楽しく食育ができるように継続して支援していく必要がある。 【対策】申込しやすいよう、健診での受付や周知を継続する。また、生活リズムと食事のリズムを整えることの大切さを伝え、朝食の喫食を促す。	方向性 継続 実施目標 子どもだけでなく、大人も含めた食生活改善を促すことができるよう、共食を通じた食生活支援に努める。 目標値 家でも実践できそうと思った人 100%	
1-1(1)④ポンチーヌによる「早寝、早起き、朝ごはん」運動の普及啓発 子どもたちからその親世代へ、食育キャラクターポンチーヌによるオリジナル食育ソングと体操を活用して、食の大切さを伝えます。	こども家庭支援課	園児 児童 生徒 保護者	ポンチーヌによる食育を実施し、早寝、早起き、朝ごはんを実践する意欲を育てる。	【目標値】実施園:27園 【実績値】0園	・感染症拡大防止のため、食育講座や出前講座は休止した。 ・はだの食育通信を発刊し、市内幼稚園、保育園、こども園、小中学校、公共施設、乳幼児健診、乳幼児教室等で配布した。市の食育の取り組みを紹介し、早寝、早起き、朝ごはんの普及啓発を行った。発刊回数 2回、発刊数 7500枚	早寝・早起き・朝ごはんをテーマとした食育を実施し、広く普及啓発することができた。	【課題】【対策】各園と連携し、より多くの人へ普及啓発し、実践意欲を高め、実践につながるよう継続していく。	方向性 継続 実施目標 ポンチーヌを活用した食育を実施し、早寝、早起き、朝ごはんを実践する意欲を育てる。 目標値 実施園 10園	

基本施策(事業名)	担当課(実施主体)	対象	事業目標	令和2年度(指標に沿った内容で記入をお願いします)			令和3年度に向けての事業予定	その他		
				目標値と実績値	実施状況及び成果等	令和2年度事業評価				
1-(1)⑤食に関する指導の充実 「食に関する指導」年間計画を作成し、「早寝、早起き、朝ごはん」、「食べ物の関わり」、「栄養バランスの良い食べ方」等について子どもたちに伝え、健康な食生活を営むことができるように判断力を培います。	教育指導課(小中学校)	児童 生徒	家庭における食習慣の確立を支援するため、生きた教材である給食を通じた食育を実施する。	生きた教材である給食を通じて、子ども一人ひとりが食について学び、自らの健康や成長について自覚を促すことができるよう、食育を実施する。 【目標値】朝食欠食の割合:小学生:0%、中学生:0% 【実績値】調査中止	学校給食を活用した食に関する指導の充実を図るために「食に関する指導」年間計画を作成し、計画に沿って健康な食生活を営むことができるよう、「食べ物と健康のかかわり」「バランスよい食べ方」等についての指導を行っている。特に、小中学校においては、日常的に給食の指導としてバランスよく食べることについて指導を行った。	「食に関する指導」年間計画は、市内全小中学校で作成されている。小学校においては、給食を通して日常の食生活に目を向けさせ、より豊かで健康な食生活を送れるよう、計画に沿って取り組みを行った。	【課題】中学校完全給食実施を見据え、子供が自らの健康を考えて給食を好き嫌いせずに食べる態度の育成が急務である。 【対策】食への興味・関心を高める手立てや工夫等について更に中学校と連携し、検討していく必要がある。	方向性 継続	実施目標 生きた教材である給食を通して、子ども一人ひとりが食について学び、自らの健康や成長について自覚を促すことができるよう、食育を実施する	目標値 朝食欠食 小学生:0% の割合 中学生:0%
			1-(1)⑥栄養教諭による「家庭における食育」の普及啓発 各家庭における子どもの健康的な食習慣づくりを支援するため、栄養教諭等(本務校:本町小、鶴巻小、堀川小)を中核とした3つのネットワークを構築し、各学校の指導体制への支援を行います。	教育指導課(小中学校)	園児 児童 生徒 保護者 教職員	家庭において健康的な食習慣の確立を支援する。	食の楽しさや大切さに気づき、よりよい食習慣を形成できるよう、支援する。 【目標値】給食だよりの発行:年11回 【実績値】発行:年11回	栄養教諭が、地域の学校給食の特徴やレシピ、食文化を盛り込んだ「給食だよりの発行し、食への興味関心を高めるとともに、家庭における食の重要性の認識や生活習慣の改善の啓発を行った。	栄養教諭が中心となって最新栄養情報等を発信することにより、子どもの日常生活の基盤である家庭における食育に関心が高まった。	【課題】栄養教諭と保護者との双方向のやり取りを行う機会がないため、保護者の理解を深めることが難しい。 【対策】子ども一人ひとりの発達や家庭環境の違いを把握した上で食育指導ができるよう、より一層学級担任との連携を図る。

成果指標	計画策定時	目標値	H28年度実績(抜粋)	H29年度実績	H30年度実績	R1年度実績	R2年度実績
② 栄養バランスをそろえた食事をする人の割合(主食・主菜・副菜をそろえた食事をしている人の割合)	63.3%	80.0%	-	60.3% (H30web調査)	60.3% (H30web調査)	62.8% (R2web調査)	62.8% (R2web調査)

基本施策(事業名)	担当課(実施主体)	対象	事業目標	令和2年度(指標に沿った内容で記入をお願いします)			令和3年度に向けての事業予定	その他		
				目標値と実績値	実施状況及び成果等	令和2年度事業評価				
1-(1)①妊産婦のための食生活指針の普及啓発 母子健康手帳交付時、マタニティチェック、おめでた家族教室等において食事の大切さを伝えていきます。またHADANO子育てあつたかめーる(メール配信)にて、健康や食育情報等を発信しています。	こども家庭支援課	妊産婦とその家族	低出生体重児の予防のため、自分の体にあった体重増加量を知っている妊婦を増やす。	自分の体にあった体重増加量を知っている妊婦が増やす。 【目標値】体にあった体重増加量を知っている人:70% 【実績値】75.0%	妊娠期からの食事についての周知を図った。 ・おめでた家族教室(含スペシャル版)年53回、参加延べ人数464人(うち、妊娠期の食事7回実施、参加者数35名)。感染症拡大防止対策のため、食事の提供を中止し、1回当たりの参加人数の制限や時間を短縮して実施した。	おめでた家族教室にて、バランスの良い食事についての周知を図り、家庭でもバランスのとれた食事をしようという意欲を高めることができた。	妊娠届出時の面接を通じて、食事バランスについて周知するとともに、おめでた家族教室や、ホームページ、パンフレット配布等により、栄養バランスのよい食事についての普及啓発に努める。	方向性 継続	実施目標 自分の体にあった体重増加量を知っている妊婦を増やす。	目標値 体にあった体重増加量を知っている人 80%
			1-1⑦食からの健康なからだ体力づくりの普及啓発 保護者を対象に、子どもの夢を実現する生活習慣や食生活、基礎となる健康、睡眠、運動(スポーツ)、食生活との関係について等の講演会等を教育委員会と連携実施し、食の大切さを伝えます。	こども家庭支援課	保護者 成人 高齢者 食育ボランティア	講演会へ参加し、食への関心が高まる。	講演会へ参加し、食への関心や知識を高める。 【目標値】実施回数:1回 【実績値】0回(休止)	感染症拡大防止のため休止した。	感染症拡大防止のため休止した。食への関心や知識を高めるため、継続した情報提供を行う必要がある。	【課題】食への関心を高め実践を促すためには、継続的な働きかけが必要。 【対策】講演会等の実施に限らず、食習慣を見直し、実践していきたいと思えるよう、内容を検討する。

基本施策(事業名)	担当課(実施主体)	対象	事業目標	令和2年度(指標に沿った内容で記入をお願いします)			令和3年度に向けての事業予定	その他					
				目標値と実績値	実施状況及び成果等	令和2年度事業評価			課題と今後の対策				
1-(1)⑧こども園等における「家庭における食育」の普及啓発  給食のサンプルや栄養量表示、給食試食会の実施を通じて、子どもたちの食や健康に関する情報を提供しています。あわせて給食だよりを発行し、給食メニューのレシピ等について情報提供しています。また、コミュニティ保育グループへの子育て情報を通じて、食の大切さを伝えています。	保育こども園課	園児	園の給食を通して子どもにとっての適正量や味付け、調理形態などを知らせる。また、乳幼児の食習慣に関する情報の提供をし、家庭における食育への支援を行う。	給食だよりを活用する保護者を増やす 【目標値】30%	新型コロナウイルス対策により、保護者試食会を中止したため、その際に依頼するアンケートが実施できず、実績値の集計ができなかった。園児の適正量や味付け等の参考となるよう、給食献立のレシピを保護者へ配布した。 また、公立認定こども園等の4～5歳児を対象に、食べ物の体内での働きやむし歯予防等についての食育指導を実施した。(年間40回 ※新型コロナウイルス対策による登園自粛のため、5月は実施なし)	保護者試食会中止に伴い、家庭における食育の普及啓発を図るため、給食レシピを配布し、家庭での給食献立の実践につなげることができた。 給食だよりには、乳幼児期の食習慣や生活習慣に関する情報提供を行い、家庭での食育の推進を図った。	【課題】 給食だよりの掲載内容について、家庭における食育が推進され、保護者に寄り添った内容にする必要がある。 【対策】 保育教諭、調理員、栄養士で情報共有を図り、内容を検討する。	方向性	継続	実施目標	家庭への給食レシピ配布	目標値	レシピ配布 年2回
			こども家庭支援課	園児保護者 乳幼児とその家族	早寝、早起き、朝ごはんをテーマとした食育を普及する。 【目標値】実施園: 27園	・感染症拡大防止のため、食育講座や出前講座は休止した。 ・はだの食育通信を発刊し、市内幼稚園、保育園、こども園、小中学校、公共施設、乳幼児健診、乳幼児教室等で配布した。市の食育の取り組みを紹介し、早寝、早起き、朝ごはんの普及啓発を行った。発刊回数 2回、発刊数 7500枚	感染症拡大防止のため講座の実施は休止した。早寝、早起き、朝ごはんの定着を図るため、各園と連携し普及啓発を行う必要がある。	【課題】 実践意欲を高め楽しく食育を進められるよう、内容を工夫しながら引き続き普及啓発をする必要がある。 【対策】 引き続き各園と連携し、普及啓発をしていく。	方向性	継続	実施目標	食育キャラクターを活用し、早寝、早起き、朝ごはんをテーマとした食育を普及する。	目標値
	子育て総務課	親子の会員が集まり、コミュニケーションを図りながら「共食」を通じ、食の楽しさを感じる中で食への関心を高めるとともに豊かな人間性を育むことで、心身の健やかな成長につなげる。 ・季節の行事食を食べたり、旬の果物や野菜の収穫に関わったりし、「楽しい」「おいしい」と感じる体験をする中で、食文化や自然の恩恵への関心を高める。	地域での集団保育活動における食育は、未就園児にとって非常に有効な機会である。食育の必要性について引き続き各グループへ周知し、食育CDの活用とともに食育関連の取組の継続及び内容の更なる拡大について呼びかけていく。	・市内各地域で活動するコミュニティ保育グループを支援した。 ＜グループの主な取組＞ ・地域に住む栄養士を講師として招き、食に関する紙芝居や、本物の野菜を使って、その食材の栄養素やどんなことに作用するのか等、クイズ形式で楽しく学んだ。 ・箸の話や、正しい箸の持ち方を学んだ。 ・秦産産の果物や野菜の収穫体験を実施した(イモ類、ミカン、枝豆、落花生等)。お土産に季節の野菜をもらい、そのおいしさを実感した。 ・お正月や節分、ひな祭り、ハロウィーンなどの季節に応じたイベントの際に、それにちなんだおやつを配布した。 ・折り紙等でおにぎりやおかずを製作し、それをプラスチック容器に盛り付けてお弁当作りをした。それを買い手と売り手に分かれてお買い物ごっこをし、食品の製造から販売までの流れをごっこ遊びを通じて学んだ。	「食」という生活の中心になっている内容を、子どもにも興味をもつきっかけを与え、家庭に戻ってしっかりと見直し、理解する機会を持たせた。 同年代の子どもとその保護者同士だからこそ、一緒に楽しく学んで理解し、食そのものを楽しむことができた。	【課題】 食育に関する取組内容の深さが、グループによって違いがある。 【対策】 食育の必要性について引き続き各グループへ周知し、取組の継続及び内容の更なる充実を呼びかけていく。	方向性	継続	実施目標	地域での集団保育活動における食育は、未就園児にとって非常に有効な機会である。食育の必要性について引き続き各グループに周知し、食育関連の取組の継続及び内容の更なる拡大について働きかけていく。	目標値	-	
1-(1)⑨社員食堂等における栄養表示などの促進  市内企業の特定制給食施設に対する実地調査や講習会を実施し、給食を通じた健康づくりを行っています。	平塚保健福祉事務所秦野センター	成人 市内企業	給食を通じた地域の健康づくりを推進する。	給食を通じた地域の健康づくりの推進。 -	●特定制給食等指導事業(継続) コロナ禍のため、特定制給食施設に対して実地・電話指導及びWeb講習会を実施し、給食を通じた健康づくりを行った。 ・実地・電話指導: 秦野市84施設(秦野、伊勢原市管内174施設)について、各施設1回以上実施予定だったが、新型コロナウイルス感染症予防のため、実地・電話指導所は20施設未実施。 ・栄養表示実施施設: 秦野市103施設 ・特定制給食施設等講習会: 4回開催(Web2回、書面2回開催) 参加施設数95施設、参加延人数113人	給食を通じた地域の健康づくりを推進してきたが、令和2年度はコロナ禍により、実地指導を電話指導に、講習会をWebや書面に計画を変更して実施した。	【課題】 ・栄養表示はされていても、塩分量が多い等、献立自体に問題がある場合がある。 【対策】 給食施設管理者に対して指導を行い、健康づくりに繋がる献立作成に努めてもらう。	方向性	継続	実施目標	給食を通じた地域の健康づくりの推進。	目標値	-

(2) 食を通じた健康意識の向上

成果指標	計画策定時	目標値	H28年度実績 (抜粋)	H29年度実績	H30年度実	R1年度実績	R2年度実績	
③ BMIの区分が正常な人の割合	男性	70.0%	75.5%	69.2%	68.3%	67.3%	67.0%	65.6%
	女性	68.8%	70.0%	69.9%	70.2%	69.2%	67.6%	67.8%
④ 低出生体重児の出生割合	10.4%	減少	-	10.9% (H28年度)	11.2% (H29年度)	8.7% (H30年度)	未確定	

基本施策(事業名)	担当課 (実施主体)	対象	事業目標	令和2年度(指標に沿った内容で記入をお願いします)			課題と今後の対策	令和3年度に向けての事業予定		その他
				目標値と実績値	実施状況及び成果等	令和2年度事業評価		方向性	実施目標	
1-(2)⑩学校における食育の推進  バランス良く食べることや「いただきます、ごちそうさま」といった食事のあいさつやマナー、「食べ物と健康との関わり」、「栄養バランスの良い食べ方」、「自分に合ったお弁当づくりや共食の大切さ」等、食の大切さについて楽しく一緒に食べることを伝えています。	教育指導課 (小中学校)	児童	望ましい生活習慣の確立に向けた食育を進める。	食に関する正しい知識と望ましい生活習慣の確立に向けた食育を進める。  【目標値】食に関する指導計画の作成:100%  【実績値】年1回作成	小学校においては、日常的に給食の指導としてバランスよく食べることについての指導を行った。食生活や睡眠などの基本的な生活習慣を形成するため、学級担任が教科学習の中で、食育指導を行った。また、中学校完全給食を見据え自らの健康を考えて、好き嫌いをなく食べる態度の育成を目指した。	「食に関する指導」年間計画に沿って、「食」に対する意識を高めるとともに、生活に結びつけた食習慣の形成を図る必要がある。 【対策】食育を横断的に教科学習の中で取り扱い、授業実践する。	方向性	継続		
			学校教育課 (小中学校)	生徒	児童生徒の健康状態について、児童生徒自身やその保護者に正しく認識してもらい、必要に応じて生活習慣の改善を促す。	受診率の向上  【目標値】受診率:30%  【実績値】不明	小学4年生及び中学2年生の保護者に対し、学校を通じて小児生活習慣病対策啓発パンフレットの配布を行った。なお、過体重(※)が+30%以上の者の保護者に対する医療機関への受診勧奨は、コロナウイルス感染症拡大防止のため、実施しなかった。  ※ 実測体重が、基準体重より30%以上多いこと 過体重度=(実測体重-基準体重)/基準体重*100	対象年齢の児童生徒に対し、小児生活習慣病対策の啓発を行うことができた。	【課題】児童生徒の健康状態について、児童生徒自身やその保護者に正しく認識してもらうために、内容を工夫しながら引き続き小児生活習慣病対策の啓発を行う必要がある。  【対策】引き続き学校と連携し、小児生活習慣病対策の啓発を行う。	方向性
1-(2)⑪健康診査結果等に基づいた食生活改善の推進  特定健康診査の結果に基づく結果説明会や栄養相談、スリムアップバランス料理講座にて、メタボリックシンドロームの予防と改善を目的に、具体的なバランスの良い食事レシピの調理実習を体験します。	健康づくり課	成人  特定保健指導対象者	市民が自身の健康状態に合わせた食生活改善に取り組むことができるよう、健康教育や栄養相談を実施することで、具体的かつ実践的な食支援をする。	生活習慣病改善への動機付けとなるよう、健康的な食生活を中心に、身体活動の増加や休養の必要性等を含め、総合的な健康づくりのための講座を実施していく。  【目標値】講座実施:年3回  【実績値】3回	1 今日からはじめる!血管イキイキ食生活のすすめ 令和元年度まで、生活習慣病の重症化を予防を目的に、「生活習慣病予防のためのクッキングセミナー」を実施してきたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、調理実習を中止し、管理栄養士による講話を中心とした講座に変更。健診結果等に基づきながら、生活習慣病を予防・改善するための食生活について支援した。 ・対象 一般市民 ・内容 年3回(高血圧症編、糖尿病編、脂質異常症編) ・延べ参加人数 37人  2 栄養相談の実施 生活習慣病や一般の食事に関する相談 14件	これまでの講座を再編し、座学中心としたことで、調理に苦手意識のある人や男性など、新たな参加者の獲得につながった。	【課題】定員を超える申込みがあり、希望者全員の参加ができていない。 【対策】感染症対策のため、参加人数を制限しているため、実施回数を増やし、より多くの対象者の参加につなげる。	方向性	継続	現在、休止している調理実習を伴う講座は、具体的に実践的な支援により、市民に対して効果的な啓発等が期待できるが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、新しい生活様式を踏まえた実施方法を検討していく。
			健康づくり課	市民の健康意識の向上及び健康診査等の受診率の向上を図る。	市民が身近な場所から自身の健康状態を把握できるよう、地域を巡回し、測定結果に基づきながら、食生活改善等の支援をする。  【目標値】実施回数:年4回  【実績値】1回	1 地域巡回型健康測定事業(健康バス事業)の実施 東海大学健康学部と協働し、骨密度や体組成等の測定を行い、その結果に基づきながら、保健師・管理栄養士による食事や身体活動に関するアドバイスを行うことで、生活習慣改善の動機付けとした。併せて健診等未受診者には受診勧奨を実施した。 ・対象者 一般市民 ・実施回数 年1回 (新型コロナウイルス感染症拡大防止のため3回休止) ・参加者数 25人	東海大学健康学部との連携により、大学の持つ知識や技術を活用し、より効果的な事業とすることで、市民の健康意識向上につなげることができているが、新型コロナウイルスの影響で予定実施回数を達成できなかった。	【課題】若い世代の健康意識の向上と健康診査やがん検診の受診率の向上 【対策】健診やがん検診の受診率向上に向けた効果的な啓発と、市民一人ひとりに合わせた生活習慣改善の支援をしていく。	方向性	継続

基本施策(事業名)	担当課 (実施主体)	対象	事業目標	令和2年度(指標に沿った内容で記入をお願いします)			令和3年度に向けての事業予定	その他		
				実施状況及び成果等		令和2年度事業評価				
				目標値と実績値	課題と今後の対策					
<b>1-(2)①健康診査結果等に基づいた食生活改善の推進</b>  特定健康診査の結果に基づく結果説明会や栄養相談、スリムアップバランス料理講座にて、メタボリックシンドロームの予防と改善を目的に、具体的なバランスの良い食事レシピの調理実習を体験します。	国保年金課	成人  特定保健指導対象者	引き続き、健診結果等に基づき、市民が自分自身の健康状態に合わせた生活習慣改善に取り組むことができるように、特定保健指導における食支援や健康教育を実施する。	健康意識の向上につながるよう、一人ひとりに合わせた食生活改善への支援を継続していく。  【目標値】スリムアップ食事バランス講座:7回 【目標値】血管いきいき生活のすすめ:3回	・特定保健指導における食支援 初回面接実施者数129人 (内訳、積極的支援13名、動機付け支援116人) ※平成31年度法定報告より ・血管いきいき生活のすすめ講座 メタボリックシンドロームや生活習慣病の予防と改善を目的に実施してきた「スリムアップ食事バランス講座」について、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、調理実習を実施せず、時間短縮し、管理栄養士の講話と血管年齢測定で3回企画したが、緊急事態宣言により、1回は中止、1回は書面開催となった。 対象者:特定健康診査及び人間ドック受診者 実施回数:教室開催1回と書面開催1回 延参加人数:教室11名、書面12名 (うち特定保健指導対象者 教室1名、書面5名) ・調理に関する啓発についてはレシピと調理の工夫、管理栄養士のコメントを記載したリーフレットを4回発行した。	・スリムアップ食事バランス講座ではピーターが多く、男性の参加者が少ないことが課題であったが、新規の参加者もあり、男性の占める割合が多かった。調理実習を行わないことが男性の参加につながったと推測される。 ・講座時間が3時間30分から1時間30分に短縮されたことも参加申し込みにつながったと思われる。	【課題】 ・男性の正常なBMIの割合を増やす。 ・血管年齢測定を目的に参加している場合がある。  【課題】 インセンティブとして実施する血管年齢測定に興味があり参加する者も多いが、講座内容を充実させることで、参加者の満足度を高めるとともに、病態編と連携しながら食生活改善につなげられるように進めていく。	方向性	継続	健康意識の向上につながるよう、一人ひとりに合わせた食生活改善への支援を継続していく。
				【実績値】教室1回 書面1回		実施目標	血管いきいき生活のすすめ講座 6回			
<b>1-(2)③高齢者の低栄養の予防</b>  高齢者のための楽しく健康やクッキングをはじめ、低栄養予防のための出前食育講座等の実施を通じて食の大切さや共食の大切さを伝えます。	高齢介護課	高齢者とその家族	楽しく健康やクッキング等の講座に加え、地域へ出向き出前講座を実施することで、高齢者の低栄養予防を重点に高齢期に適した食事について広く普及啓発していく。	・講座では、フレイルにも関連させた内容も加えたうえで、引き続き、広く普及啓発を行っていく。 ・高齢者にも手軽で低栄養を防止するようなメニューの作成をする。 ・食のボランティアに対する衛生指導、栄養指導を継続的に行っていく。 ・現在さわやか体操を実施している団体に、活動と合わせて栄養に関する講座を実施することを検討する。	フレイルに至るのを予防するために高齢者の望ましい栄養と食事の摂り方についての講座を実施し低栄養予防の普及啓発を行った。 調理実習では男性でも出来る、電子レンジ等を利用した手軽な調理の情報提供及び実践を行った。 また、出前講座やミニデイサービス、いきがい型デイサービス地域のサロンの参加者だけでなく、食事提供ボランティアに対しても高齢者の食事の特性について普及啓発を行った。個別プラン検討型地域ケア会議において、基本チェックリスト栄養の項目にチェックが入った方に対し、訪問指導を実施した。  【関連事業 開催実績】 ・フレイル予防で健康長寿 6回 延べ79人 ・いきいき運動コース 4回 延べ104人 ・出前講座 13回 延べ215人 ・ミニデイ 3回 延べ60人 ・地域高齢者支援センター主催の介護予防教室 3回 延べ32人 ・個別プラン検討型地域ケア会議への出席(養野市介護予防マネジメント事業新規利用者の事例検討) 21回 ・介護予防・日常生活支援総合事業(短期集中C) 対象者16人 訪問延べ17回 ・単発電話相談 対象者3人 訪問延べ3回	・フレイル予防の重要性を保健師、歯科衛生士と共に講座を実施することで多方面から低栄養予防や高齢者に適した食事についての普及啓発を図ることができた。 ・調理実習を通して、手軽に調理できるメニューを提案し、実生活に取り入れやすい講座を実施することができた。 ・令和2年度は、各ミニデイサービスいきがい型デイサービス実施日に出向き、食事提供ボランティアと一緒に調理し、高齢者に食べやすい調理の工夫と食の衛生講習会を実施した。 ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、開催予定の事業を一部中止および規模を縮小して行ったため、昨年度より参加者人数が減少した。	【課題】 ・調理実習を含む栄養に関する講座に男性の参加が少ない。 ・会場への移動手段が徒歩やバス利用が大半を占めるために実施会場に限られる。 【対策】 ・一人暮らしをしている男性に対して積極的な声掛けを行うなど、周知活動をする。 ・「はだのさわやか体操で介護予防」などの団体に出向く等、より地域と密接させた普及啓発を行う。	方向性	継続	加齢による口腔機能の低下は食事を制限し、低栄養状態を招く。口腔機能の低下は、自覚がないまま生活を継続することによって悪化する。口腔機能が低下する前の段階でオーラルフレイルについて普及啓発を行い、よく噛んで食べ、健康寿命の延伸につなげていく必要がある。
				【目標値】栄養に関連する介護予防普及啓発(延べ):70回、1,500人		実施目標				
				【実績値】栄養に関連する介護予防普及啓発49回 延べ1,105人				目標値		

【指標に間接的に関わる事業】

基本施策(事業名)	担当課(実施主体)	対象	事業目標	令和2年度(指標に沿った内容で記入をお願いします)				令和2年度に向けての事業目標	その他
				目標値と実績値	実施状況及び成果等	令和2年度事業評価	課題と今後の対策		
1-(2)⑩良く噛んで味わって食べることの啓発活動の推進～噛ミング30(カミングサンマル)運動～ 歯と口の健康週間における口腔ケア講習会等を実施し、食事の大切さについて伝えています。 高齢者を対象とした口から始まる若返り術、歯周疾患検診事業(現 歯周病検診事業)や小学校巡回歯科指導等の実施を通じて、各年代における歯や口からの健康意識の向上を支援しています。	健康づくり課	市民がいつでも食事をおいしく健康的に食べることができるよう、口腔ケアに関する普及啓発および検診を実施する。	口腔意識及び健康意識の向上につながるよう口腔ケアに関する普及啓発を実施していく。 【目標】講演会の実施:1回 【実績値】0回	1 歯と口の健康週間事業の実施 中止 (秦野伊勢原歯科医師会主催 秦野市共催) 2 口腔がん検診 中止 3 歯周病検診 ・対象者数 9,026人 ・受診者数 496人 ・受診率 5.4%(昨年度受診率:5.6%) 4 タウンニュース秦野版を活用した情報提供 秦野伊勢原歯科医師会と連携し、口腔ケアに関する情報を発信(取材協力)	新型コロナウイルス拡大防止のため、歯と口の健康週間事業が中止となり、同日実施している口腔がん検診も中止となった。 歯周病診については、受診率向上のため、これまでの取組みに加え、検診医療機関にポスター掲示の協力依頼し、検診の案内と受診勧奨を行った。	【課題】 歯周病検診受診率の低迷 【対応】 広報等による効果的な周知に努め、歯科医師会との連携や、他市町村での実施方法を参考にしながら、検診を受けやすい体制づくりを検討する。	方向性 継続	引き続き、秦野伊勢原歯科医師会と連携し、歯周病検診や口腔ケアに関する普及啓発等を実施していく。	
	学校教育課	子どもたちの歯からの健康づくりのため、今後歯科巡回指導を継続する。	子どもたち一人ひとりが正しいブラッシング技術を習得し、心身の健康につなげられるよう、継続的に指導する。 【目標値】実施率:100% 【実績値】100%	虫歯や歯周病予防など、子どもたちの「歯からの健康づくり」のため、パンフレットの配布によって歯の健康に関する知識を普及し、歯科衛生士による巡回指導を行った。 【小学校13校、こども園5園】 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、巡回指導に代わり、パンフレットの配布をもって歯の健康に関する知識の普及をおこなった。 【幼稚園8園】 ・園児及び保護者を対象に、人形劇等を用いて、わかりやすく歯みがきの基本を指導した。 4歳児 11クラス・211人/5歳児 22クラス・540名	園児(4・5歳児)、小学生(1年～5年)に対するパンフレットの配布や巡回指導により、虫歯や歯周病の予防など、歯の健康に関する知識を普及し、歯みがきの技術向上を図ることができた。	【課題】 現在巡回指導を行っている学年に加え、小学校6年生や中学校1年～3年生へ歯の健康に関する意識づけを行う。 【対策】 巡回による正しい知識の啓発に加え、学校・園での歯みがきの習慣化が必要。	方向性 継続	子どもたち一人ひとりが正しいブラッシング技術を習得し、歯の健康から自身の生連にわたる心身の健康につなげられるよう、継続的に指導する。	
	園児	適切な口腔清掃と健	高齢になってもよく噛んで味わって食べることができるよう、オーラルフレイルの予防について普及啓発の充実を図る。 【目標値】口腔に関連する介護予防普及啓発(延べ)65回、1,150人 【実績値】100%	フレイル予防で健康寿命の講座では、保健師・管理栄養士とともに、講座を実施し、オーラルフレイルについて普及啓発を行った。口の体操や唾液腺マッサージなどを指導しながら、高齢者の口腔機能の向上及び、口腔ケアに関する知識の向上を図った。よく噛んで味わって食べることの重要性を、出前講座や地域での介護予防教室を通して、普及啓発していった。 個別プラン検診型地域ケア会議において、基本チェックリスト口腔の項目にチェックが入った方に対し、訪問指導を実施した。 【関連事業 開催実績】 ・フレイル予防で健康寿命 6回 延べ79人 ・口から始まる若返り術 2回 延べ36人 ・いきいき運動コース 4回 延べ104人 ・出前講座 19回 延べ353人 ・ミニデイ 8回 延べ214人 ・地域高齢者支援センター主催の介護予防教室 2回 延べ55人 ・個別プラン検診型地域ケア会議(秦野市介護予防マネジメント事業新規利用者の事例検討)への出席 32回	保健師、管理栄養士と連携しながら、口腔に関する普及・啓発を行うことが出来た。 個別プラン検診型地域ケア会議で検討したオーラルフレイルが予測される対象者へ訪問を行い、対面でオーラルフレイル予防に関する普及啓発及び口腔指導を実施することができた。 ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、開催予定の事業を一部中止および規模を縮小して行ったため、昨年度より参加者人数が減少した。	【課題】 オーラルフレイルの認知をさらに普及する必要がある。 【対策】 口腔に関する講座単発ではなく、他の講座とも関連付けて、口腔やオーラルフレイルに関心を持ってもらう。	方向性 継続	高齢になってもよく噛んで味わって食べることができるよう、オーラルフレイルの予防について普及啓発の充実を図る。	
	成人 高齢者	高齢介護課	訪問件数(延べ)21回 対象者(実)15人	【実績値】 口腔に関連する介護予防普及啓発41回 延べ892人	・介護予防・日常生活支援総合事業(短期集中):延べ8回訪問(対象者3人) ・単発訪問指導・相談:延べ13回訪問(対象者12人)			実施 目標	加齢による口腔機能の低下は食事を制限し、低栄養状態を招く。口腔機能の低下は、自覚がないまま生活を継続することによって悪化する。口腔機能が低下する前の段階でオーラルフレイルについて普及啓発を行い、よく噛んで食べ、健康寿命の延伸につなげていく必要がある。

(3) 食品の安全性の確保

成果指標	計画策定時	目標値	H28年度実績 (抜粋)	H29年度実績	H30年度実	R1年度実績	R2年度実績
⑤ 食品を選ぶとき、安全性を意識して購入する人の割合	32.8%	90%以上	-	26.8% (H30web調査)	26.8% (H30web調査)	60.0% (R2web調査)	60.0% (R2web調査)

基本施策(事業名)	担当課 (実施主体)	対象	事業目標	令和2年度(指標に沿った内容で記入をお願いします)			令和3年度に向けての事業予定		その他	
				目標値と実績値	実施状況及び成果等	令和2年度事業評価	課題と今後の対策	方向性		継続
1-(3)⑭栄養成分表示の適正化の推進  栄養成分表示の推進講習会等を実施し、食品のパッケージにある栄養成分表示の見方や賢い活用方法について伝えます。	平塚保健福祉事務所 野センター	成人 市内企業	消費者に対する適正な食品情報の提供及び提供された情報の活用を目指して実施する。	消費者に対する適正な食品情報の提供及び提供された情報の活用を目指して実施する。	栄養表示等普及啓発及び活用推進事業 平成27年4月1日に施行した食品表示法が令和2年4月1日からは完全施行となり、加工食品の栄養成分表示が原則義務化となった。消費者に対する適正な食品情報の提供及び提供された情報の活用を目指したが、コロナ禍により感染予防のため、計画通りにはできなかったが、対面での講習会は少人数で実施し、人数が多い時は書面により普及啓発を行った。また、食品事業者へ栄養成分表示等の周知を行い、個別相談・指導を行った。 【個別相談・指導】食品関連事業者に対する相談・指導:25件25回、消費者からの相談:0件0回 【普及啓発講習会等】消費者等に対する普及啓発:4回104人	消費者に対しては、食品のパッケージにある栄養成分表示の見方や賢い活用方法等について周知できた。食品事業者に対しては、消費者へ食品パッケージへの栄養成分表示の提供方法について、相談・指導できた。	【課題】消費者に対する普及啓発の機会が少ない。  【対策】消費者へ直接対応する事業の際には、可能な限り栄養成分表示の活用を盛り込む。	方向性	継続	
			実施目標	消費者に対する適正な食品情報の提供及び提供された情報の活用を目指して実施する。	目標値	-				
1-(3)⑮食の安全に関する知識の普及  夏休み親子消費者教室にて手作りプリンの実習をし、市販の食品の着色料やおやつを選び方を伝えています。身近な食べ物や簡単な実験等を通して、食品の安全性や表示の見方等を伝えています。また、かながわの食品衛生等情報誌による啓発活動や、食の安全、安心相談ダイヤルの周知をしています。	市民相談人権課  平塚保健福祉事務所 野センター	児童 生徒 保護者 成人 高齢者	国内農産物を使用した加工食品を作る体験を通じて、食品添加物や輸入食品添加物などの表示制度等の理解を深め、安全な食品を選択する力を親子で育てる。	国内農産物を使用した加工食品を作る体験を通じて、食品添加物や輸入食品添加物などの表示制度等の理解を深め、安全な食品を選択する力を親子で育てる。  【目標値】実施回数:1回 【実績値】0回(中止)	新型コロナウイルスの影響により中止		過去10年以上同様の内容で教室を開催しており、食品添加物についての関心は高まったと考えられるため、当初目標を達成したものとす。	方向性	終了	
			実施目標	今後は多様化する新たな消費者問題に対応できる被害防止について啓発していく。	目標値					
1-(3)⑯生産者の顔が見える食育の推進  はだの野菜ヘルシー料理講座では、生産者講師からの野菜情報を伝えています。新鮮な朝採り野菜1食500kg alの実習を行い、安心と楽野の良さを再発見する楽しい講座を行っています。また、地元小学校区でとれた野菜を小学校等の給食へ使用しています。	農業振興課  学校教育課	成人 園児 児童 生徒	令和2年度までに、市内学校給食における楽野産の割合を33%に増加	引き続き供給団体と連携を取りながら地場産農産物の使用拡大を図っていく。  【目標値】市内学校給食における楽野産の割合:33%  【実績値】28.3%	小学校給食における地場産農産物の導入 楽野産農産物の供給団体(農協、東地区農産物直売研究所、丹沢楽野観光農業研究会、峠農組合)と連携し、学校給食への新鮮な地場農産物の使用拡大を図った。 市内学校給食における楽野産の割合:28.3%	楽野産農産物の供給団体(農協、東地区農産物直売研究所、丹沢楽野観光農業研究会、峠農組合)と連携し、学校給食への新鮮な地場農産物の使用拡大を図ったが、学校給食における楽野産の割合実績は前年より減少した。	【課題】楽野産の割合が目標値に達しておらず、前年度と比べて減少しているため、割合を上げる必要がある。 【対策】供給団体と連携を取りながら、使用拡大を図る。	方向性	継続	
			実施目標	引き続き供給団体と連携を取りながら地場産農産物の使用拡大を図っていく。	目標値	市内学校給食における楽野産の割合 30%				
1-(3)⑰楽野産の活用を促進する	学校教育課	児童 生徒	給食における地場農産物の活用を図るため、学校給食関係者と生産者との交流を促進する。	給食における地場農産物の活用を図るため、学校給食関係者と生産者との交流を促進する。  【目標値】学校給食における地場産物を使用する割合:33%  【実績値】28.3%	新型コロナウイルスの拡大により、例年実施している「そら豆のさや剥き体験」や「とうもろこしの皮むき体験」を中止した。 また、生産者、学校及び教育委員会による年度末の反省会も書面開催としたため、一切交流が図れなかった。	年度当初の一斉休校により、例年使用している地場農産物が使用できず、結果として、前年を下回る実績値となった。	生産者との交流の機会の増加、新たな地場農産物の取入れなどを検討していく。	方向性	継続	
			実施目標	給食における地場農産物の活用を図るため、学校給食関係者と生産者との交流を促進する。	目標値	学校給食における地場産物を使用する割合 33%				

【指標に間接的に関わる事業】

基本施策(事業名)	担当課 (実施主体)	対象	事業目標	令和2年度(指標に沿った内容で記入をお願いします)			令和3年度に向けての事業予定		その他	
				目標値と実績値	実施状況及び成果等	令和2年度事業評価	課題と今後の対策	方向性		継続
<b>1-(3)⑩生産者の顔が見える食育の推進</b>  はだの野菜ヘルシー料理講座では、生産者講師からの野菜情報を伝えています。新鮮な朝採り野菜1食500kcalの実習を行い、安心と秦野の良さを再発見する楽しい講座を行っています。また、地元小学校区でとれた野菜を小学校等の給食へ使用しています。	健康づくり課	成人	生産者と消費者との交流を通し、地産地消を推進するとともに、併せて健康的な食生活に関する実践支援により、生活習慣病の予防を図る。	地場産の野菜と本市の農業への理解を深め、地産地消の推進を図りながら、健康的な食生活実現に向けての支援を継続していく。  【目標値】講座実施:年12回  【実績値】0回	1 はだの野菜ヘルシー料理講座(平成15年に開始)地産地消の推進と生活習慣病の予防を目的として、生産者講師から野菜に関する情報提供と、地場産野菜を使用した食事(1食約500kcal、塩分3g未満)の調理実習を行う講座を実施してきたが、新型コロナウイルス拡大防止のため中止した。  2 SNSを活用した料理動画配信 自粛生活でも健康的な食生活を実践するための支援として、公式YouTubeを活用し、「Happy Dish Note ~幸せの料理帳~」のタイトルで料理動画を配信した。野菜を中心とした健康的なメニューなど、野菜の摂取量増加につながるよう努めた。 ・配信数 9回 ・動画再生回数 3,443回	新型コロナウイルス拡大防止のため、現在、調理実習を伴う講座を休止していることから、生産者との交流による普及啓発が実施できない状況が続いている。 新たな生活様式を踏まえた普及啓発として、動画配信を開始し、広く健康的な食生活に関する情報提供を実施した。	【課題】 新たな生活様式を踏まえた講座の実施 【対策】 SNS等を活用した普及啓発の実施	方向性  実施目標  目標値	継続 地場産野菜を使用したメニューの普及など、地産地消の推進を図りながら、健康的な食生活実現に向けての支援を継続していく。  動画配信数 6回	現在、休止している調理実習を伴う講座は、具体的かつ実践的な支援により、市民に対して効果的な啓発等が期待できるが、新型コロナウイルス拡大防止のため、新しい生活様式を踏まえた実施方法を検討していく。

「第2次はだの生涯元気プラン(秦野市食育推進計画)」取組状況等調査表

視点2: ころ	基本目標2 食の大切さを実感し、豊かな心を育みます～共食の推進～
施策の方向性	1 食を通じたコミュニケーションの確保 2 食に関する様々な体験の充実 3 食の伝統技術や文化の継承

※本文P51～53

(1)食を通じたコミュニケーションの確保

成果指標	計画策定時	目標値	H28年度実績 (抜粋)	H29年度実績	H30年度実績	R1年度実績	R2年度実績
① 共食の認知度(19日は食育の日)	28%	80%	-	42.5%	29.6%	44.0%	35.0%

基本施策(事業名)	担当課 (実施主体)	対象	事業目標	令和2年度(指標に沿った内容で記入をお願いします)			令和3年度に向けての事業予定	その他
				目標値と実績値	実施状況及び成果等	令和2年度事業評価		
2-(1)①食育の日の啓発活動の推進 「毎月19日は秦野市民の食育の日、家族そろって食べようDAY!」を市内へ広めます。食育のぼり旗や食育のうたを活用した各学校を主体とした取り組みを支援します。また、広報、庁内ポータルサイト掲示板、SNS等を利用して、一緒に食べることの大切さや楽しさを伝えます。	子ども家庭支援課	成人	毎月19日は食育の日、家族そろって食べようDAYであることを知っている人を増やす。	毎月19日に、全庁的連絡事項掲示板に、市管理栄養士が勤める市食育事業のメニューを掲示しながら食育の日の周知を行った。その後、ホームページへ情報を掲載した。 【目標値】庁内掲示、ホームページ掲載:12回	毎月19日に、全庁的連絡事項掲示板に、市管理栄養士が勤める市食育事業のメニューを掲示しながら食育の日の周知を行った。その後、ホームページへ情報を掲載した。 ホームページのアクセス件数 毎月19日は食育の日「家族そろって食べようDAY!」646回 市管理栄養士からのおすすめヘルシーレシピ 666回	毎月19日に、全庁的連絡事項掲示板に、市管理栄養士が勤める市食育事業のメニューを掲示しながら食育の日の周知を行った。その後、ホームページへ情報を掲載した。	【課題】引き続き、市民への周知を行う必要がある。 【対策】のぼり旗の掲示や活用による各学校等の取り組みを支援していく。	方向性 継続 実施目標 毎月19日は食育の日、家族そろって食べようDAYであることを周知する 目標値 庁内掲示、ホームページ掲載 12回
		児童 生徒	毎月19日は食育の日であることを周知し、食への関心を高める。	食育の日の周知啓発のため、秦野市食育キャラクター「ポンチーヌ」を活用したポスターを作成した。その際、旬の食材についての情報を載せるなど食に関する意識や関心を高められるよう工夫した。また、給食指導等において「ポンチーヌ」を活用し、子ども達の食に対する興味関心を高めた。	毎月、季節に合わせた「ポンチーヌ」でポスターを作成し、子どもたちが食育キャラクターに親しみを感ずることができるよう工夫した。	【課題】ポンチーヌのポスターをきっかけに、食に関する意識を更に高める。 【対策】ポスターに食材の情報などを載せ、食に関する様々なことに対して関心を高める。	方向性 継続 実施目標 毎月19日は食育の日であることを周知し、食への関心を高める。 目標値 10回	
2-(1)②給食(共食)を通じたコミュニケーションの促進 園の食育活動である調理保育活動等を支援していきます。給食試食会にて保護者の皆様と交流し、食べる楽しさを伝えます。子ども食堂、ミニデイ、生きがいデイサービス等の市民主体のサービスへの支援を行い、各年代へ共食の楽しさを伝えます。	子育て総務課	園児 児童 生徒 保護者 成人 高齢者	友達や大人たちが集まり、共に楽しく食事をすることは、食への関心を高め、コミュニケーションを豊かにしていく。地域における「共食」の機会として非常に有効な「子ども食堂」等の取り組みを、市内各所で推進している。 地域の協力による野菜の収穫体験や、提供された地元野菜を食材として活用することで、子どもたちが地産地消の意義を学ぶとともに、食への感謝の気持ちを醸成する機会とする。	新たに市民団体1団体の活動を支援した。 ●みんなの食堂☆つるまき 実施内容:みんなの食堂☆つるまき運営委員会 実施内容:食事の提供 日程:月1回、第2水曜日17:00～18:30 参加人数:子どもと保護者約15人 ボランティア約10人  令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、活動が制限されたが、「子ども食堂」として上記1団体が2回(試食会を含む)開催した。 職場産の野菜の提供を受け、食材として活用した。 公共施設内の飲食が禁止になって以降は、報徳食品支援センターからの支援を受け、食品配布を2回実施した。 団体がチラシを小学校及び子ども園へ配布し、子育て世帯への周知を行った。  上記団体以外の団体は新型コロナウイルス感染症の状況から活動せず、上記団体についても実施回数補助金の補助基準に満たなかったため、補助金は交付しなかった。	新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、各団体が希望する活動を行うことができなかった。 食堂を運営することが困難な中、1団体が食堂を再開した。また、公共施設内の飲食禁止後も地域内での「食」への支援策を検討し、食品配布に切り替えて実施した。 地域で「食」への支援を行うことで、食への感謝の気持ちを醸成する機会となった。	【課題】公共施設の飲食禁止が継続される中、子ども食堂の再開に向けた支援を実施すること。 【対策】新型コロナウイルスの感染状況をみながら、活動再開に向けた支援策や、啓発方法等を検討し、事業の継続実施を支援する。	方向性 継続 実施目標 新型コロナウイルス感染症の影響により公共施設の飲食禁止が継続される中、withコロナ時代の子ども食堂の在り方を模索している団体へ、今後も活動を支援していく。 目標値 -	

基本施策(事業名)	担当課(実施主体)	対象	事業目標	令和2年度(指標に沿った内容を記入をお願いします)			令和3年度に向けての事業予定		その他	
				目標値と実績値	実施状況及び成果等	令和2年度事業評価	課題と今後の対策	方向性		継続
2-(1)②給食(共食)を通じたコミュニケーションの促進  園の食育活動である調理保育活動等を支援していきます。給食試食会にて保護者の皆様と交流し、食べる楽しさを伝えます。こども食堂、ミニデイ、生きがいデイサービス等の市民主体のサービスへの支援を行い、各年代へ共食の楽しさを伝えます。	保育こども園課	園児	食に対する関心や興味を高めるとともに、楽しく食事をする。	こども園における年長児の調理保育の実施  【目標値】実施率:100%  【実績値】80%	新型コロナウイルス対策のため、主に園児一人ひとりの手元で調理できるようなスイートポテト作りやおにぎり作りなど、栽培・収穫した農作物を使用し、各公立認定こども園の年長児クラスで調理保育を実施した。また、調理保育における園児同士や先生とのコミュニケーションをとって、食べ物の大切さやありがたみを共有し、食べ物への感謝の気持ちを育んだ。	各公立認定こども園の調理保育計画に基づき、新型コロナウイルス対策を講じながら4園で調理保育を実施することができた。また、調理保育をとおして、毎日の食事ができる過程を学びながら食物への感謝の気持ちを育み、関心を高めることができた。	【課題】 新型コロナウイルスの状況を随時把握し、調理保育を安全に実施できる体制づくりや企画への助言等の支援が必要。  【対策】 保育教諭へ食材の確保や衛生面、安全面等の情報提供を行う。	方向性	継続	公立認定こども園における年長児の調理保育の実施
			教育指導課	児童 生徒 保護者 成人	農産物の栽培、収穫体験を通して、食への関心を高める。  【目標値】13園、22校で実施  【実績値】13園、22校で実施	・夏野菜等の栽培や収穫活動を通じて食に対する興味や関心を更に深める活動を行った。	・栽培活動を通じて、農作物や食物に関心を持ち、食べ物を大切にすることができた。	なし	方向性	継続
	高齢介護課	高齢者	ミニデイサービス、いきがい型デイサービスの食を提供する既存の場で、食を通じて地域の人々が交流することで、介護予防を目指す。	ミニデイサービス、いきがい型デイサービスの場で、楽しい会食を通じて交流することで、介護予防を目指していく。	高齢者が身近でかわりを持つことができる場として、また、高齢者自身ができる範囲でボランティアとして参加し、利用者の支援、食事の提供を行うといった役割を担うよう支援を行った。また、新規ボランティアを迎えたところあり、今後の活動継続に向けた体制を整えることができた。 ・ミニデイサービス(市内6か所) 延べ134回 参加者数2,212人 ボランティア数1,529人  ・いきがい型デイサービス 延べ229回 3,593人 (内訳)・保健福祉センター 74回 1,362人 ・広畑ふれあいプラザ 155回 2,231人	新型コロナウイルス感染症対策のため、3月より事業が中止となったが、ボランティアによって提供された食事を通して、楽しい食事の時間を過ごし、交流を通して介護予防につながる体制づくりを構築できた。	市民主体によるサービスであるため、感染症対策について指導を行っていく必要がある。今後も引き続き、事業を継続し、食を通じた介護予防の場を提供する。	方向性	継続	感染症予防に留意しながら、ミニデイサービス、いきがい型デイサービスの場で、楽しい会食を通じて交流することで、介護予防を目指していく。
2-(1)③企業における食育活動の推進  市内の特定給食施設指導を通じて、保健・医療・福祉・学校等の関係者に対して19日は食育の日の啓発活動や、共食の大切さを伝える取り組みを支援します。	平塚保健福祉事務所栗野センター	市内企業 管理栄養士 栄養士	管内の食育及び栄養・食生活対策の一層の推進を図るため、関連事業や研修を実施する。  【目標値】栄養改善普及運動:1事業所、食育推進研修開催:1回  【実績値】栄養改善普及運動:20事業所	●栄養改善普及運動 事業所給食施設を対象とし、「そろえて食べてスマイルスリー〜主食・主菜・副菜をそろえた食事」を実施。なかなか健康プラン21(第2次)の目標の中で「主食・主菜・副菜をそろえて食べる者の割合増加」とあるが、特に働く世代でそろえて食べる割合が低いため、事業所を対象とし全保健福祉事務所・センターにて実施。コロナ禍のため、全事業所35施設に教育媒体等送付し活用状況を確認した(うち栗野市内事業所 20施設)。  ●職域と連携した生活習慣病対策 (公社)神奈川労務安全衛生協会平塚支部からの依頼で、市内事業所の社員等を対象にコロナ禍のため書面にて食教育を実施。 4月6日 新入社員 17名  ●食育推進研修 コロナ禍のため、実施できなかった。	コロナ禍のため一部事業は計画どおり実施できないものもあったが、それ以外は実施方法を工夫して実施し、管内の食育及び栄養・食生活対策の一層の推進を図ることができた。	【課題】 栄養改善普及運動について、食に関わる教育媒体を送付し活用状況を確認したが、活用した事業所は13施設で全体の37%であった。  【対策】 教育媒体について、より興味を持ち活用したい内容のものを検討する。	方向性	継続	管内の食育及び栄養・食生活対策の一層の推進を図るため、関連事業や研修を実施する。	

(2)食に関する様々な体験の充実

成果指標	計画策定時	目標値	H28年度実績 (抜粋)	H29年度実績	H30年度実績	R1年度実績	R2年度実績
② 学校給食における地場産物を使用する割合	31.5%	33%	28.6%	28.7%	31.5%	30.7%	28.3%

基本施策(事業名)	担当課 (実施主体)	対象	事業目標	令和2年度(指標に沿った内容で記入をお願いします)			令和3年度に向けての事業予定		その他
				目標値と実績値	実施状況及び成果等	令和2年度事業評価	課題と今後の対策		
2-(2)④家庭における食農体験の推進  市民農園等を利用し、さつまいも、落花生、じゃがいも、ピーマン等の様々な体験型農業の楽しさを伝えます。	農業振興課	成人	資材の補充や積極的な広報活動によって、体験型農業の一層の利用促進を図る。	市内外への情報発信により、体験型農業の一層の利用促進を図る。  【目標値】体験型農業参加区画数:400  【実績値】0区画	新型コロナウイルス感染症拡大防止のためすべての事業が中止	新型コロナウイルス感染症拡大防止のためすべての事業が中止	【課題】実施団体の財政的独立 【対策】新たな財源の確保をしつつ、市の補助金なしでも自立できる事業になるよう検討する。上地区農園ハイクについては令和3年度より地域まちづくり計画推進交付金を活用	方向性 継続 実施目標 市内外への情報発信により、体験型農業の一層の利用促進を図る。 目標値 体験型農業参加区画数 400区	
		高齢者 園児	ふれあい農園事業を実施により、高齢者の知識と経験した生産事業に参加すること、高齢者相互及び園児との交流を深め、高齢者の生きがいの高揚を高める。	ふれあい農園(三本松)を開設し、作付けから収穫までを地域の子供、保育園児等と交流を図り、高齢者の生きがいの効果を図った。  ・活動日数 三本松農園 令和2年度 72日 ・参加者(高齢者)参加延べ人数 令和2年度 517名 ・園児数 令和2年度 57名	コロナ禍の影響で前年度より、園児数、参加者(高齢者)ともに人数は減少した。	【課題】実施する高齢者が高齢化により減少し、後継者が育っていない。 【対策】各老人クラブへ声掛けを行い、参加を募集していく。	方向性 継続 実施目標 食に関する体験を行うことで、高齢者の生きがいづくり、他世代との交流の機会場の確保に努めるため。 ふれあい農園事業を実施により、高齢者の知識と経験を生かした生産事業に参加及び高齢者相互や園児との交流を深めて、生きがいづくりの推進を継続していく。		
2-(2)⑤幼稚園、保育園、こども園、小学校、中学校における農業体験等の促進  近隣の畑や水田を利用した農業等体験学習を実施し、生産者への感謝の気持ちを育みます。空豆の皮むき等、近隣の農業生産者の協力により様々な食の体験学習を実施し、感謝の気持ちと豊かな心を育みます。	教育指導課 (幼稚園、小中学校)	園児	豊かな心を育むため、各園・校において農産物の栽培、収穫などの体験活動の充実を図る。	園児が苗の植え付けや収穫体験を通して食への関心が高まり、苦手な食材も食べようとする気持ちが持てるようになっている。  【目標値】13園、22校  【実績値】13園、22校	園児が苗の植え付けや収穫体験を通して、作物の成長に興味関心が高まり、食物に感謝する心を育むことができた。	なし	方向性 継続 実施目標 豊かな心を育むため、各園・校において農産物の栽培、収穫などの体験活動の充実を図る。 目標値 13園、22校		
		児童 生徒	作物の栽培、収穫を通して自然の恵みや収穫の喜びを体験し、食への興味や食べる意欲を高める。	取種体験等の実施  【目標値】実施率:100%  【実績値】100%	地域の農業生産者の協力のもと、さつまいもやじゃがいも等の栽培、収穫を行い、調理保育や給食での提供により喫食までを行った。新型コロナウイルス対策のため、苗植えは農業生産者や職員が行ったが、園庭の畑やプランターで育てた夏野菜(きゅうり、なす、トマト等)については、園児が苗植えから収穫までを行い、農作物を収穫する楽しさや喜びを体験した。 また、収穫した野菜を持ち帰り、家庭での食育やコミュニケーションにつなげた。	苗植えから収穫までの一連の過程を体験し、農業生産者に対する感謝の気持ちを育みながら、食に対する興味や食べる意欲を高めている。	【課題】地域の農業生産者の高齢化 【対策】他団体や他課との連携により、農業生産者の負担軽減に努めながら、園内での取種体験の拡充および体験学習の充実を図る。	方向性 継続 実施目標 取種体験等の実施 目標値 実施率 100%	
2-(2)⑥地域との連携による食の体験活動の促進  親子地場産野菜教室では、農作物の栽培から収穫まで、生産者グループの協力を得て体験し、カレーや豚汁と一緒に収穫を祝います。	農業振興課	園児 児童 保護者 成人	親子地場産野菜教室及びはだの市民農業塾は、継続的に実施する。	各事業、引き続き同様に実施をし、食の体験活動の促進を図っていく。  【目標値】親子地場産野菜教室参加親子:15組  【実績値】8組	・作物の植え付けや管理、収穫、調理まで体験する「親子地場産野菜教室」を実施。親子8組が参加。 ・令和2年度については、コロナ禍での実施であったため、本来チラシを市内小学校等に配布していたが、小学校が休校になるなど、広報手段に制限がかかった状況が続き、参加人数が大幅に減った。	各事業の参加者数について、前年より減少したものの実施できた。	【課題】今後参加親子組数が増えた時の対応を図る必要がある。実際には、農業協同組合の駐車場を借り、参加者の車を駐車しているが、組数が多くなるにつれて、車の誘導の必要やATM利用者の妨げにならないように対応する必要がある。  【対策】スタッフの配置の配分を再度検討する。	方向性 継続 実施目標 各事業、引き続き同様に実施をし、食の体験活動の促進を図っていく。 目標値 親子地場産野菜教室参加親子 20組	

基本施策(事業名)	担当課(実施主体)	対象	事業目標	令和2年度(指標に沿った内容で記入をお願いします)				令和3年度に向けての事業予定		その他
				目標値と実績値	実施状況及び成果等	令和2年度事業評価	課題と今後の対策	方向性	実施目標	
2-(3)㉞給食における地場産物や郷土料理、和食等の導入の促進 小学校給食において地場産物や和食、郷土料理等を導入していきます。農業生産者の協力による伝統農耕具を利用した福刈、幼稚園、こども園等における郷土料理づくりを支援し、文化の継承を行います。また、農業生産者等による総合的な学習による	学校教育課	園児 小中学生の保護者	小学校給食における地場産物の使用及び郷土料理等の導入の促進	小学校給食における地場産物の使用及び郷土料理等の導入の促進 【目標値】学校給食における地場産物を使用する割合:33%		再掲			方向性	
				【実績値】					実施目標	
3-(1)㉟給食における地場産物の利用促進 給食における地場産物の活用を進めるため、学校給食関係者と生産者との交流を行います。	学校教育課	教職員 児童 生産者	給食における地場産物の活用を図るため、学校給食関係者と生産者との交流を促進する。	給食における地場産物の活用を図るため、学校給食関係者と生産者との交流を促進する。 【目標値】学校給食における地場産物を使用する割合:33%		再掲			方向性	
				【実績値】					実施目標	
									目標値	

(3)食の伝統技術や文化の継承

成果指標	計画策定時	目標値	H28年度実績(抜粋)	H29年度実績	H30年度実績	R1年度実績	R2年度実績
㉟ 食育に関心がある人の割合	74.7%	90%以上	-	72.3% (H30web調査)	72.3% (H30web調査)	66.8% (R2web調査)	66.8% (R2web調査)

基本施策(事業名)	担当課(実施主体)	対象	事業目標	令和2年度(指標に沿った内容で記入をお願いします)				令和3年度に向けての事業予定		その他
				目標値と実績値	実施状況及び成果等	令和2年度事業評価	課題と今後の対策	方向性	実施目標	
2-(3)㉞給食における地場産物や郷土料理、和食等の導入の促進 小学校給食において地場産物や和食、郷土料理等を導入していきます。農業生産者の協力による伝統農耕具を利用した福刈、幼稚園、こども園等における郷土料理づくりを支援し、文化の継承を行います。また、農業生産者等による総合的な学習による食育活動を行います。	学校教育課	園児 小中学生の保護者	小学校給食における地場産物の使用及び郷土料理等の導入の促進	小学校給食における地場産物の使用及び郷土料理等の導入の促進 【目標値】学校給食における地場産物を使用する割合:33%	JAはだのをはじめ、地元青果店と連携し、地場産物の利用促進を図っている。 また、年3回開催する献立作成委員会において、郷土料理を積極的に導入した。	新型コロナウイルスの感染拡大により、調理研究会や保護者からの募集し等により、目標値の達成を目指す。	生産者等との交流を促進するほか、関連事業の見直し等により、目標値の達成を目指す。	なし	方向性	継続
				【実績値】28.3%					実施目標	調理研究会の実施と地元農家との交流
	教育指導課	小中学生の保護者	食農教育の一環として郷土食や地域の伝統・手作りの味を伝承する。	食農教育の一環として郷土食や地域の伝統・手作りの味を伝承する。 【目標値】	JAはだの女性部の協力を得て、幼稚園・こども園の保護者が寒野郷土料理や四季折々の行事食を寒野で生産された農作物を使い、手作りの温かさ・やさしさ・おいしさを伝承するふると料理教室を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止。	コロナウイルス感染症拡大防止のため中止。	なし		方向性	継続
				【実績値】					実施目標	学校給食における地場産物を使用する割合 33%
									目標値	-

視点2:こころ

基本施策(事業名)	担当課(実施主体)	対象	事業目標	令和2年度(指標に沿った内容で記入をお願いします)			令和3年度に向けての事業予定		その他
				目標値と実績値	実施状況及び成果等	令和2年度事業評価	課題と今後の対策	方向性	
<b>2-(3)㉞給食における地場産物や郷土料理、和食等の導入の促進</b>  小学校給食において地場産物や和食、郷土料理等を導入していきます。農業生産者の協力による伝統農耕具を利用した福刈、幼稚園、こども園等における郷土料理づくりを支援し、文化の継承を行います。また、農業生産者等による総合的な学習による食育活動を行います。	保育こども園課    農業振興課	園児   小中学生の保護者	伝統行事や文化に触れ、郷土料理を知らせる。	給食だより等を用いた、地場産物等の情報提供  【目標値】情報提供:年12回  【実績値】年12回	公立認定こども園の毎月の給食献立に、伝統料理や郷土料理等(七草がゆ、月見団子、柏もち等)を組み込み、園児にとって身近な給食から、それらの意味を知らせ、食文化への興味を高める取り組みを行った。また、食文化への給食だよりには、その月の献立と関連する伝統行事等についても掲載し、家庭における食育の推進につなげた。	地場産物を使用した給食で提供される、伝統料理や郷土料理を身近に感じ、その由来等を知ること、文化に触れることができた。	【課題】給食への地場産物の導入と食文化への関心をさらに高める必要がある。  【対策】納品業者への地場産物の納品協力依頼と、給食だより等を活用しながら、保育教諭、調理員、栄養士で情報共有を図る。	方向性 継続  実施目標 給食だより等を用いた、地場産物等の情報提供  目標値 情報提供 年12回	
			今後イベント等を通じて、地産地消の意識高揚を図り、取り組みを推進していく。	引き続き同様に実施をし、農家が長年培ってきた農産加工の技術・食文化を提供していく。  【目標値】農業フォーラム参加:20名  【実績値】0組	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。	【課題】なし  【対策】なし	方向性 継続  実施目標 引き続き同様に実施し、農家が長年培ってきた農産加工の技術・食文化を提供していく。  目標値 農業フォーラム参加 24名	
<b>2-(3)㉟社員食堂における地場産物や郷土料理等導入の促進</b>  特定給食施設等において地場産物を活用することや、食文化を伝える和食や郷土料理を活用するよう支援します。	平塚保健福祉事務所 秦野センター	成人 市内企業	29年度実施なし(栄養改善普及運動へ移行)						
<b>2-(3)㊱地域における郷土料理、和食等の食文化継承の促進</b>  そばうち、お月見、もちつき、飾り寿司、太巻きづくりなどの地元で伝わる料理を学ぶふるさと料理教室をはじめ、各地区公民館における取り組みにて日本食の伝統料理のすばらしさを伝え、守り、継承する気持ちを育みます。県人会活動や国際理解講座「世界の料理」での食の素晴らしさを引き続き伝えていきます。また、アイデア料理コンテストの実施により生まれた子どもたちが考える新たな郷土料理を地産地消月間を通じて伝えます。	文化振興課   市民活動支援課   生涯学習課(公民館)	成人(市内企業)  乳幼児  園児  児童  生徒	料理教室を通して、外国籍市民の日本における社会生活への理解を深めるとともに、市民の国際理解の意識を高めていく。	今後も料理教室を通じて、外国籍市民の日本における社会生活への理解を深めるとともに、市民の国際理解の意識を高めていく。	秦野市国際交流協会に委託している国際理解講座の一つとして、外国料理教室「タイ料理を作ろう!」を実施 ・実施日 10月26日 ・内容 秦野市在住でタイ出身の方を講師に、タイの家庭料理の調理を行った。 ・感染症対策のため、動画を作成し、市公式YouTubeに掲載した。	他国料理の調理を通して、他国の文化への理解を深めるとともに、市民の国際理解の意識を高めることができた。	コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策を講じながらの開催となるため、今後も実施方法の検討が必要。	方向性 継続  実施目標 今後も料理教室を通じて、外国籍市民の日本における社会生活への理解を深めるとともに、市民の国際理解の意識を高めていく。  目標値 -	
			県人会組織の充実を図り、市民や各県人会との交流を促進していく。	県人会組織の充実を図り、市民や各県人会との交流を促進していく。	新型コロナウイルスの影響で、各種イベントが中止になったことから、例年の活動を行うことができなかった。	新型コロナウイルスの感染防止の観点から、人が多数集まるイベントが中止になったことから、市民との交流ができなかった。	【課題】各県の特産品の購入や、市民との交流など、オンラインを活用する。 【対策】県人会員にオンラインの操作に長けた人材の養成、または募集をする。	方向性 継続  実施目標 県人会組織の充実を図り、市民や各県人会との交流を促進していく。  目標値 -	
			郷土料理、名産品や伝統行事の関わる料理教室を開催するとともに、季節のイベントに合わせた料理教室や高齢者や親子、男性等を対象とした多様な事業を実施する。	郷土料理、名産品や伝統行事の関わる料理教室を開催するとともに、季節のイベントに合わせた料理教室や高齢者や親子、男性等を対象とした多様な事業を実施する。  【目標値】郷土料理等の教室開催:教室、郷土料理以外の料理教室の開催:教室 【実績値】郷土料理等の教室開催:22教室、郷土料理以外の料理教室の開催:40教室	豊かな自然が残る上地区や大根地区の郷土料理「ふるさとの料理教室」、有機栽培で育てた秦野特産のそばを使った「そば打ち教室」や伝統行事である「どんと焼きだんご作り」や「お月見まんじゅう作り」など22教室(延べ294人参加)を実施した。 また、郷土料理等以外にも、「かんたん料理教室」や男性を対象とした「男の料理教室」や子ども向けの「子ども料理教室」、親子で食育を考える「夏休み親子料理教室」、「親子でパン作り」等、40教室(延べ430人参加)を実施した。	多くの事業をボランティア講師を招き開催し、郷土料理、名産品や伝統行事の関わる料理教室を開催するとともに、季節のイベントに合わせた「父の日プレゼントハープのクリームチーズ作り」や「クリスマスケーキ作り」等や「男の料理」、「親子料理教室」など多様な事業を実施した。 ・令和2年度郷土料理等の教室を22教室開催、令和2年郷土料理以外の料理教室40教室開催できた。	【課題】ボランティア講師の継続的な確保や教室名のタイトルやメニュー、参加者の増における工夫・検討について 【対策】メニューの工夫・検討についてはボランティア講師と連携を取り、工夫していく。 ・新型コロナウイルス感染症のために公民館を臨時休館していた期間があり、事業実施の有無が未定。	方向性 継続  実施目標 郷土料理、名産品や伝統行事の関わる料理教室を開催するとともに、季節のイベントに合わせた料理教室や高齢者や親子、男性等を対象とした多様な事業を実施する。  目標値 郷土料理等の教室開催22教室 郷土料理以外の料理教室の開催 44教室	郷土料理、名産品や伝統行事の関わる料理教室を開催するとともに、季節のイベントに合わせた料理教室や高齢者や親子、男性等を対象とした多様な事業を実施する。

視点2:こころ

基本施策(事業名)	担当課(実施主体)	対象	事業目標	令和2年度(指標に沿った内容で記入をお願いします)			令和3年度に向けての事業予定		その他	
				目標値と実績値	実施状況及び成果等	令和2年度事業評価	課題と今後の対策	方向性		継続
2-(3)⑨地域における郷土料理、和食等の食文化継承の促進	農業振興課		サポーター登録店38店舗を目標に、事業の充実を図る。	引き続き同様に実施する。 【目標値】アイデア料理コンテスト参加店舗:10店舗、商品化作品:8作品 【実績値】なし	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。	【課題】地産地消月間の実施をより広く周知する必要がある。 【対策】市民に対し、より広くPRを図る。	方向性 実施目標	継続 引き続き同様に実施する。	
			成人(市内企業) 乳幼児 園児 児童 生徒	市民ボランティアと、小学校や中学校、農政、商工分野、秦野センター、食育事業者との連携による事業の実施ができる。	ボランティアが主催する事業を小学校や中学校、農政、商工分野、秦野センター、食育事業者との連携により、支援する。	感染症拡大防止のため、秦野市食生活改善推進団体が主催する「アイデア料理コンテスト」が中止とされたが、関係や関係機関等と連携し、次年度に向けた企画等の支援をした。	各分野と連携し、秦野市食生活改善推進団体の活動を支援することができた。	引き続き、各分野と連携し、活動の支援を行う。食への関心を高められるよう、事業や作品等の周知を行う。	方向性 実施目標	継続 ボランティアが主催する事業を小学校や中学校、農政、商工分野、秦野センター、食育事業者との連携により、支援する。
	健康づくり課	伝承料理の継承や日本食の素晴らしさを伝えながら、健康的な食生活の実践につなげる。	日本食の良さを伝え、食文化の体験を通して伝承料理の継承や充実した食生活の実践につなげる。 【目標値】伝承料理講座:年1回 【実績値】0回	1 はたの野菜ヘルシー料理講座(再掲) 同講座において、伝承料理の継承としてそば打ちを実施しているが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止した。 2 SNSを活用した料理動画配信(再掲) 公式YouTubeにおいて、和食の基本となる「かつおだしの取り方」や、正月料理やお祝い事にも活用できる「手まり寿司」等、伝統的な料理の動画を配信した。	動画の作成に当たり、食生活改善推進団体との連携を図り、円滑な運営ができた。	【課題】新しい生活様式を踏まえた普及啓発の実施 【対策】より多くの市民への啓発につながるよう、周知方法等を工夫する。	方向性 実施目標	継続 引き続き、広く市民に周知し、伝承料理の継承や充実した食生活の実践につなげる。		
2-(2)④家庭における食農体験の推進	農業振興課	成人	資材の補充や積極的な広報活動によって、体験型農業の一層の利用促進を図る。	市内外への情報発信により、体験型農業の一層の利用促進を図る。 【目標値】体験型農業参加区画数:400 【実績値】		再掲		方向性 実施目標		
			高齢者 園児	ふれあい農園事業を実施により、高齢者の知識と経験を生かした生産事業に参加すること、高齢者相互及び園児との交流を深め、高齢者の生きがいの高揚を高める。	ふれあい農園事業を実施により、高齢者の知識と経験を生かした生産事業に参加及び高齢者相互や園児との交流を深めて、生きがいの高揚を推進を継続していく。		再掲	方向性 実施目標		
2-(2)⑥地域との連携による食の体験活動の促進	農業振興課	園児 児童 保護者 成人	親子地場産野菜教室及びはたの市民農業塾は、継続的に実施する。	各事業、引き続き同様に実施をし、食の体験活動の促進を図っていく。 【目標値】親子地場産野菜教室参加親子:15組 【実績値】		再掲		方向性 実施目標		

「第2次はだの生涯元気プラン(秦野市食育推進計画)」取組状況等調査表

視点3:くらし 基本目標3 自然を大切に、活力あるくらしをみんなでつくります～食でつながりづくり～

施策の方向性	1 地産地消の推進 2 食糧生産における環境への配慮 3 食育を担う人材の確保・育成、ネットワークづくりの推進	※本文P57～59
--------	---------------------------------------------------------------	-----------

(1)地産地消の推進

成果指標	計画策定時	目標値	H28年度実績 (抜粋)	H29年度実績	H30年度実績	R1年度実績	R2年度実績
① 体験型農業の拡充 観光農業など体験型農業の参加区画数	250区画	400区画 (H30修正)	303区画	350区画 393区画	360区画	344区画	0区画

基本施策(事業名)	担当課 (実施主体)	対象	事業目標	令和2年度(指標に沿った内容で記入をお願いします)			令和3年度に向けての事業予定	その他
				目標値と実績値	実施状況及び成果等	令和2年度事業評価		
3-(1)①観光農業など体験型農業の推進  地域特性や資源を生かした観光農業や体験型農業の実施から、農業生産者と市民との交流を図り、安全・安心を確保しながら活力ある地産地消を進めます。	農業振興課	成人 児童 生徒	引き続き、観光農業や体験型農業等の事業を実施するとともに、広報活動を通じて、更なる地産地消推進を図る。  【目標値】体験型農業参加区画数:400  【実績値】0区画	市内外への情報発信により、体験型農業の一層の利用促進を図る。	新型コロナウイルス感染症拡大防止のためすべての事業が中止	新型コロナウイルス感染症拡大防止のためすべての事業が中止	【課題】 実施団体の財政的独立 【対策】 新たな財源の確保をしつつ、市の補助金なしでも自立できる事業になるよう検討する。 上地区農園ハイクについては令和3年度より地域まちづくり計画推進交付金を活用	方向性 継続 実施目標 市内外への情報発信により、体験型農業の一層の利用促進を図る。 目標値 体験型農業参加区画数 400区画
				給食における地場農産物の活用を図るため、学校給食関係者と生産者との交流を促進する。  【目標値】学校給食における地場農産物を使用する割合:33%  【実績値】28.3%	新型コロナウイルスの拡大により、例年実施している「そら豆のさや剥き体験」や「とうもろこしの皮むき体験」を中止した。また、生産者、学校及び教育委員会による年度末の反省会も書面開催としたため、一切交流が図れなかった。	年度当初の一斉休校により、例年使用している地場農産物が使用できず、結果として、前年を下回る実績値となった。	生産者との交流の機会の増加、新たな地場農産物の取入れなどを検討していく。	方向性 継続 実施目標 給食における地場農産物の活用を図るため、学校給食関係者と生産者との交流を促進する。 目標値 学校給食における地場農産物を使用する割合 33%

【指標に間接的に関わる事業】

基本施策(事業名)	担当課 (実施主体)	対象	事業目標	令和2年度(指標に沿った内容で記入をお願いします)			令和3年度に向けての事業予定	その他
				目標値と実績値	実施状況及び成果等	令和2年度事業評価		
3-(1)②秦野優良農産物等登録認証制度の充実  安全、安心の品質を保持した市内農産物を認定する制度に登録し、マークを食品に表示することで安全、安心をわかりやすく提供します。	農業振興課	成人	秦野優良農産物等登録認証制度の啓発等を通じ、安全で安心な秦野産農産物等の生産振興・消費拡大を図る。平成32年度までに優良農産物登録認証件数9件を目標に、生産者に対し制度の理解促進を図る。  【目標値】優良農産物等登録認証件数:9件  【実績値】7件	環境にやさしい方法で栽培された、安全で安心・高品質な秦野産の農産物や農産加工品(以下、「農産物等」)を秦野市が設置した審査機関(地産地消推進部会)で審査・認証し、その農作物等の『よさ』を消費者の皆さんに分かりやすくPRするため、秦野優良農産物等登録認証制度を実施した。 ・小麦、ブルーベリー、ぶどう、なし、ブルーベリージャム及び花きの更新審査を行い、6品目を改めて認証をした。 ・安全で安心・高品質な秦野産農作物であることを消費者に分かりやすく伝えるため、シンボルマークを配布した。また、登録認証制度の啓発等を通じ、安全で安心な秦野産農作物等の生産振興・消費拡大を図る。登録件数9件を目標に、生産者に対し制度の理解促進を図る。	小麦、ブルーベリー、ぶどう、なし、ブルーベリージャム及び花きの更新審査を行い、6品目を改めて認証をした。	【課題】 秦野優良農産物等認証制度の普及  【対策】 イベント等の実施を通して、生産者及び消費者へPRを図る。	方向性 継続 実施目標 優良農産物等登録認証件数の増加 目標値 9件	
				はだの産農産物応援サポーター協力店の増加に努める。(平成33年3月までに38事業所)	1「はだの農産物応援サポーター制度」協力店 48事業所 2市民農園の設置状況 (1)組合運営 ふれあい農園2箇所(約3ha) (2)JAはだの運営 さわやか農園41箇所(約6.4ha) (3)コミュニティ農園(2箇所約2,750m) (4)高齢者ふれあい農園(1箇所約1,400m) 3「農」の担い手育成支援事業(はだの市民農業塾)の状況 (1)新規就農コース5名 (2)基礎セミナーコース6名 (3)農産加工起業セミナー4名	はだの産農産物応援サポーター店を増やすことができた。	【課題】 応援サポーター店が地産地消に協力していることの認知度が低い。 【対策】 今後もサポーター店の存在をPRする看板等を作成する。	方向性 継続 実施目標 はだの産農産物応援サポーター協力店を増やす。 目標値 農産物応援サポーター協力店(令和4年度末まで):51店舗 農業塾受講者基礎セミナーコース:10名 農産加工セミナー:8名

(2)食糧生産における環境への配慮

成果指標	計画策定時	目標値	H28年度実績 (抜粋)	H29年度実績	H30年度実績	R1年度実績	R2年度実績
② 市民1人1日あたりのごみ排出量(資源物を除く)	689.0g	636.3g (H30修正)	692.2g	676g	653g	613g	622g
③ 学校給食の残食率	3.7%	5.0%	2.7%	2.9%	2.5%	2.2%	2.7%

基本施策(事業名)	担当課 (実施主体)	対象	事業目標	令和2年度(指標に沿った内容で記入をお願いします)			令和3年度に向けての事業予定	その他		
				目標値と実績値	実施状況及び成果等	令和2年度事業評価				
2-(2)⑤幼稚園、保育園、こども園、小学校、中学校等における農業体験等の促進  近隣の畑や水田を利用した農業等体験学習を実施し、生産者への感謝の気持ちを育みます。空豆の皮むき等、近隣の農業生産者の協力により様々な食の体験学習を実施し、感謝の気持ちと豊かな心を育みます。	教育指導課 (幼稚園、小学校)	園児  児童	豊かな心を育むため、各園・校において農産物の栽培、収穫などの体験活動の充実を図る。	豊かな心を育むため、各園・校において農産物の栽培、収穫などの体験活動の充実を図る。  【目標値】14園、22校 【実績値】		再掲	方向性			
			作物の栽培、収穫を通して自然の恵みや収穫の喜びを体験し、食への興味や食べる意欲を高める。	収穫体験等の実施  【目標値】実施率:100% 【実績値】		再掲	方向性			
3-(2)⑤環境に配慮した食生活の促進  買い物、料理、片付けの中で、食べ残しがないよう環境に配慮した食生活を伝えます。食べ残しを減らして、資源を大切にする気持ちや行動が広がるように、コンポスト、生ごみ処理機等を活用した資源循環の取り組みを紹介します。	環境資源対策課 (幼稚園、こども園、小学校)	園児	成果指標の達成に向け、様々な場で啓発活動を実施し、家庭でのごみ排出量減量を図る。	ごみの減量について、各家庭に一層の周知啓発を行うため、従来のイベント啓発、出前講座に加えて、公民館などの公共施設に常設のパネルを設置し、継続してごみの現状と減量目標を分かりやすく掲示する。  【目標値】パネル設置:13ヶ所 【実績値】パネル設置:13ヶ所	・可燃ごみの約3割を占める生ごみの排出抑制を図るため、家庭用生ごみ処理機購入費補助制度を実施している(電動・非電動・ディスプレイ)。令和2年度生ごみ処理機購入費補助件数:115台(電動:67台、非電動:23台、ディスプレイ:25台) ・市内の自治会、婦人会等を対象に出前講座を開催した。(7回延べ232名) ・市内の小学校、幼稚園等で啓発活動を実施した。(ごみの話:2回、はだのエコスクール:11回) ・生ごみ持ち寄り農園の2例目を戸川地区(利用者12世帯)で開設した。	可燃ごみの排出量は、さまざまな減量、資源化施策により、目標値を上回り順調に減量が進んでいる。	さらなる可燃ごみの減量には、水切りの徹底、生ごみの資源化及び食品ロスなど各家庭の協力が不可欠であり、今後も引き続き啓発活動を進める必要がある。	方向性	継続	
		生徒							実施目標	ごみの減量について、各家庭に一層の周知啓発を行うため、従来のイベント啓発、出前講座に加えて、公民館などの公共施設に常設のパネルを設置し、継続してごみの現状と減量目標を分かりやすく掲示する。
		高齢者								目標値
3-(2)⑥水や環境に配慮した体験活動の推進  水や環境を大切にする気持ちが広がるよう水や環境の歴史に触れる機会や様々なリサイクルの体験学習の機会を提供します。	環境共生課 (幼稚園、こども園、小学校、環境資源対策課、経営総務課)	園児	食を通じて水や環境について考え、水や環境を大切にする気持ちや行動が広がるよう、水や環境の歴史などに触れる機会を提供し、様々なリサイクルなどの体験活動の推進	①学校に対して、積極的に講座メニューの受講を勧める。 ②③食を通じて水や環境について考え、水や環境を大切にする気持ちや行動が広がるよう、水や環境の歴史などに触れる機会を提供し、様々なリサイクルなどの体験活動の推進  【目標値】①年間2校以上 ②参加者500名以上 ③各回とも定員である20名の参加 【実績値】 ①延べ5校14園 ②117名 ③22名	① 秦野エコスクールの実施(水やりサイクルに通じるメニューを抜粋) 小学校、幼稚園、保育園、こども園対象) (1) 秦野名水の話:1校、137人 (2) 地下水保全紙芝居:5園、288人 (3) 秦野の水道の歴史:1校、228人 (4) 水道施設見学:1校、5人 (5) カントリーマアムと環境のお話:1校109人 (6) 3つのRでゴミを減らそう:1校、109人 (7) 資源とゴミを分けるンジャー9園、319人  ②名水フェスティバルの実施 8月1日に名水フェスティバルを実施。はだのブランドアンバサダーの立石純子さんに協力いただき、名水に関するトークライブを新たに企画、実施した。例年名水の利き水体験等を実施している市民の日は新型コロナウイルス対策のため中止となった。  ③秦野名水さんぽ 例年春と秋に実施している名水さんぽは新型コロナウイルスのため秋のみ実施した。	①新型コロナウイルスの影響で後期の実施であったが、後期は予想以上の申し込みにより、目標を達成した。  ②市民の日が中止となったため、参加者200名には届かなかったが、名水フェスティバルは新型コロナウイルスの影響下においても多くの方に参加いただき、秦野名水の啓発につながった。  ③新型コロナウイルスの影響で春は中止となったが秋の実施では目標人数を超える参加をいただいた。	【課題】継続性の確保。マンネリ化への対策。  【対策】常に内容を検討、更新しながら工夫して充実を図る。また、協力者の育成等にも注力する。	方向性	継続	
		児童							実施目標	引き継ぎ、秦野市の特性である水の保全、活用の視点から、生命や食の根源である水と水を育む環境の大切さを啓発していく。
		成人								目標値
	経営総務課		名水の里である秦野市の水道や水や歴史について、次世代を担う子どもたちに水道事業の啓発を行う。	市内小学校に対してエコスクール等を開催し、次世代を担う子どもたちに上下水道事業の啓発及び興味を抱く機会を提供することができた。 ・開催回数 2回(エコスクール1回、施設見学会1回) ・開催校数 2校 ・参加者数 228人	新型コロナウイルス感染症等の影響により、市内13小学校のうち2校のみの開催依頼となったが、子どもたちには上下水道事業のこのことを知る機会を提供することができ、水道創設期の陶管に触れたり、配水場の見学を行うなど、小学生にとって貴重な体験となっている。	小学校の開催意向に左右されず、エコスクール所管課からの案内に加え、上下水道局からの開催案内や上下水道パンフレットを送付するなど、積極的なPRに努める。	方向性	継続		
								実施目標	エコスクール等の開催回数	
								目標値	7回	

【指標に間接的に関わる事業】

基本施策(事業名)	担当課(実施主体)	対象	事業目標	令和2年度(指標に沿った内容で記入をお願いします)				令和3年度に向けての事業予定		その他
				目標値と実績値	実施状況及び成果等	令和2年度事業評価	課題と今後の対策	方向性	継続	
3-(2)⑦農業における資源循環の促進 GAP(農業生産工程管理)による環境にやさしい農業を推進します。	農業振興課	成人 生産者	平成32年度までに優良農団等登録認証件数9件を目標に、生産者に対し制度の理解促進を図る。	優良農産物等登録認証件数の増加 【目標値】優良農産物等登録認証件数:9件	・環境にやさしい方法で栽培された、安全で安心・高品質な秦野産の農産物や農産加工品(以下、「農産物等」)を秦野市が設置した審査機関(地産地消推進部会)で審査・認証し、その農産物等の『よさ』を消費者の皆さんに分かりやすくPRするため、秦野優良農産物等登録認証制度を実施した。 ・小麦、ブルーベリー、ぶどう、なし、ブルーベリージャム及び花きの更新審査を行い、6品目を改めて認証をした。 ・安全で安心・高品質な秦野産農産物であることを消費者に分かりやすく伝えるため、シンボルマークを配布した。また、登録認証制度の啓発等を通じ、安全で安心な秦野産農産物等の生産振興・消費拡大を図る。登録件数9件を目標に、生産者に対し制度の理解促進を図る。	小麦、ブルーベリー、ぶどう、なし、ブルーベリージャム及び花きの更新審査を行い、6品目を改めて認証をした。	【課題】 秦野優良農産物等認証制度の普及  【対策】 イベント等の実施を通して、生産者及び消費者へPRを図る。	方向性	継続	
				【実績値】 7件			実施目標	優良農産物等登録認証件数の増加		
							目標値	9件		

(3)食育を担う人材の確保・育成、ネットワークづくりの推進

成果指標	計画策定時	目標値	H28年度実績(抜粋)	H29年度実績	H30年度実績	R1年度実績	R2年度実績
④ 食育を担うボランティアの活動回数(食生活改善推進員→※修正:市が把握するボランティア)	986回	1,050回	750回	695回	818回	※1,128回	※631回

基本施策(事業名)	担当課(実施主体)	対象	事業目標	令和2年度(指標に沿った内容で記入をお願いします)				令和3年度に向けての事業予定		その他
				目標値と実績値	実施状況及び成果等	令和2年度事業評価	課題と今後の対策	方向性	継続	
3-(3)⑩食のボランティア育成と活動の推進 地域における食育を担う食生活改善推進員等の養成や指導者の育成を行い、その活動への支援を行います。	子育て総務課	園児 児童 生徒	行政と地域で協働した食育の推進を図るため、食育を担うボランティアの養成及び育成を実施する。	みんなの食堂の開催を通じ、地域ボランティアの活動機会を確保する。 【目標値】 各団体8回/年以上 【実績値】 2回(1団体)	既存の団体に加え、新たに1団体の活動を支援した。 【開催実績】 みんなの食堂☆つるまき 1 試食会 参加者28人 2 食堂 参加者24人 3 食品配布2回 参加者延べ75人 ※人数にはボランティア及び利用者を含む。	新型コロナウイルス拡大により、公共施設内の飲食が禁止される等、予定していた活動ができなかった。 食堂としては1団体が2回(試食会含む)実施したが、感染症の影響により食堂の開催ができなくなってからは、食品の配布を行い、地域における「食」の支援を実施した。	なし	方向性	継続	
				【実績値】 2回(1団体)			実施目標	地域の食材、地域の人材の力により、地域に根差した「みんなの食堂」を開催し、活動を通して地域における食育の一助とする。		
	健康づくり課	保護者 成人 高齢者 食育ボランティア	行政と地域で協働した食育の推進を図るため、食育を担うボランティアの養成及び育成を実施する。	充実した健康づくりをしていけるよう、食育を担うボランティアの養成及び育成を実施する。 【目標値】養成講座:1コース(年) 【実績値】 1コース(年)	1 食生活改善推進員養成講座 食育活動を推進するボランティアを養成するため、ライフステージにおける食育や、衛生管理等、食生活改善推進員としての基礎知識を学ぶ講座を実施 年1回(4日間コース) 受講者数13人(13人修了)  2 食生活改善推進団体育成事業 食生活改善推進団体が、地域のニーズに合わせた活発な活動をしていけるよう、団体活動の支援を実施した。 また、定例研修会の講師協力や、運営委員会における事業の企画運営に対する支援を行った。 実施回数 6回 参加延べ人数 108人	食生活改善推進団体では、新型コロナウイルス拡大防止のため、多くの事業が中止となり、活動回数が595回に減少。目標値である活動回数1,050回には到達できなかったが、自主事業や地区社協からの依頼による事業など、地域に根差した活動を継続しており、その運営や事業の企画等の支援をした。	【課題】 会員の高齢化や会員数の減少により、役員の負担が増えていることから、会員を増やし、団体が活動しやすい環境づくりをする必要がある。  【対策】 団体の活動内容は充実しており、地域や市民からの信頼を確立しているため、その質をさらに高めながら活動できるよう支援を継続していく。	方向性	継続	
				【実績値】 1コース(年)			実施目標	地域に根差した食育を推進できるよう、食育を担うボランティアの養成及び育成を実施する。		
	高齢介護課	高齢介護課	食育の推進に関わるボランティアの活動支援 【目標値】 【実績値】 32回	食育の推進に関わるボランティアの活動支援 ・食事を提供するボランティアへの衛生講座を実施し、食育を担う人材育成・ネットワークづくりを行う。各ミニデイサービス実施日に出向き食のボランティアと一緒に調理し、食の衛生講習会を実施。 ・ミニデイ等の食のボランティアの衛生講習会 32回 延252人	新型コロナウイルス感染症拡大のため、デイサービスの多くが中止となったが、事業開始に向けて、衛生講習実施し、ボランティアの実施意欲が継続するよう支援した。	食事を提供するボランティアへ感染症対策を含めた内容の指導を組み込み引き続き対応していく必要がある。	方向性	継続		
				【実績値】 32回			実施目標	高齢期の食生活、身体変化等の特性を意識した取り組みを継続し、食事を提供するボランティアに対し、引き続き支援する。		
								目標値	-	

【指標に間接的に関わる事業】

基本施策(事業名)	担当課 (実施主体)	対象	事業目標	令和2年度(指標に沿った内容で記入をお願いします)			令和3年度に向けての事業予定	その他		
				目標値と実績値	実施状況及び成果等	令和2年度事業評価				
3-(3)⑨学校等における食に関する指導体制の充実  食育担当者会議を開催し食育の情報交換を行うとともに、栄養教諭を中心としたネットワークづくりを進めます。(再掲)	教育指導課 (小中学校)	教職員	学校等における食に関する指導体制の充実を図る。	目標値と実績値	学校における食に関する指導体制の充実及び食育を担う人材の育成を図るため、栄養教諭を中核とした4つのネットワークを構築し食に関する指導体制の充実を図る。	栄養教諭を中核としたネットワークを構築を図る取組の実現に向けて情報交換を行う計画を立てていたが、食育担当者会議は書面開催となった。	【課題】 食に関する指導が給食や家庭科の授業のみになってしまう傾向がある。  【対策】 栄養教諭が学校生活全般を通し、食に関する指導を一体化できるよう、コーディネートする。	方向性	継続	学校等における食に関する指導体制の充実を図る。
				実施目標						
				目標値	-					

基本施策(事業名)	担当課 (実施主体)	対象	事業目標	令和2年度(指標に沿った内容で記入をお願いします)			令和3年度に向けての事業予定	その他		
				目標値と実績値	実施状況及び成果等	令和2年度事業評価				
3-(3)⑩管理栄養士等の研修と配置の促進  管理栄養士を対象とした研修を体系的に実施し、食育を推進するために適正な管理栄養士の配置を進めます。	保育こども園課	職員	研修に参加し職務に必要な技術や理論を持ち合わせ、管理栄養士の適正配置に努める。	目標値と実績値	1 専門職の資質向上 ・県立公立保育所栄養士連絡協議会において書面会議及び情報交換を行った。(新型コロナウイルス対策のため、書面開催のみ) 2 食のネットワーク強化 ・公立認定こども園5園の担当保育教諭、調理員、担当副園長、市栄養士の13名で構成する給食・食育検討委員会を年4回実施した。各園職員の負担軽減、会議の効率化を図るため、3ヶ月に1回の開催に変更して実施。(令和元年度は年12回)各園における、給食・衛生管理や、アレルギー対応の情報共有等、安心安全の給食提供に向けた体制づくりに努めた。 ・公立認定こども園給食会議を年30回実施し、アレルギー児や離乳食の対応等、保育教諭からの相談や情報共有を図る機会とした。 ・秦野センターが主催する管内栄養業務連絡会議において書面会議及び情報交換を行った。(新型コロナウイルス対策のため、書面開催のみ)	新型コロナウイルス対策のため、会議等は書面開催となったが、食物アレルギー対応等の研修会へ参加するなど、知識・技術の向上に努め、公立認定こども園の安心安全な給食提供及び食育の推進を図った。 また、民間保育所等においても、知識・技術を活用し、各園からの相談等に対応した。	【課題】 管理栄養士は、公立認定こども園だけでなく、民間保育所等を含めた市内保育所等において、安全面、衛生面等の助言や情報提供及び食育の推進にさらに努めていく必要がある。  【対策】 管理栄養士の適正配置に努め、民間保育所等への巡回指導等を充実させる。	方向性	継続	管理栄養士としての資質向上のため、研修等への参加により、充実した食育の推進等につなげていく。
				実施目標						
				目標値	-					
	健康づくり課	食育ボランティア等	研修に参加し職務に必要な技術や理論を持ち合わせ、管理栄養士の適正配置に努める。	目標値と実績値	1 専門職の資質向上 2 専門職のネットワーク強化 秦野センターが開催する、栄養業務連絡会議への出席により、管内の栄養士間で情報の共有や連携を図る。 3 学生指導 管理栄養士養成施設の臨地実習における学生指導を実施し、人材育成に努める。5施設	計画どおり実施できた。	【課題】 行政栄養士へのニーズが高まっており、非常勤や事業従事(在宅)の管理栄養士を含め、情報の共有化を必要とする必要がある。  【対策】 OJT等により、地域の健康課題等を共通認識し、関係課で連携し研修を進めた。	方向性	継続	研修等への参加を通して管理栄養士としての資質向上につなげ、食育推進をしていくことのできる体制づくりを継続する。
				実施目標						
				目標値	-					
	こども家庭支援課		研修に参加し職務に必要な技術や理論を持ち合わせ、管理栄養士の適正配置に努める。	目標値と実績値	引き続き、管理栄養士としての資質向上のための体制づくりをしていく。 1 専門職の資質向上(研修等への参加) 2 専門職のネットワーク強化 秦野センターが開催する、栄養業務連絡会議への出席により、管内の栄養士間で情報の共有や連携を図る。 3 学生指導 管理栄養士養成施設の臨地実習における学生指導を実施し、人材育成に努める。3施設	計画どおり実施できた。	【課題】 行政栄養士へのニーズが高まっており、非常勤や事業従事(在宅)の管理栄養士を含め、情報の共有化を必要とする必要がある。  【対策】 OJT等により、地域の健康課題等を共通認識し、関係課で連携し研修を進めた。	方向性	終了	
				実施目標						
				目標値	-					

基本施策(事業名)	担当課 (実施主体)	対象	事業目標	令和2年度(指標に沿った内容で記入をお願いします)			令和3年度に向けての事業予定		その他	
				目標値と実績値	実施状況及び成果等	令和2年度事業評価	課題と今後の対策	方向性		継続
<b>3-(3)⑨管理栄養士等の研修と配置の促進</b>  管理栄養士を対象とした研修を体系的に実施し、食育を推進するために適正な管理栄養士の配置を進めます。	高齢介護課	職員  食育ボランティア等	管理栄養士(特定職員)は他部署の管理栄養士との連携に努め、栄養業務連絡会や研修会への参加も積極的に行っていく。管理栄養士は食育を担うボランティアの活動への支援とネットワークづくりを推進していく。	管理栄養士を対象とした研修に参加していく。	・平成28年度から管理栄養士2名(特定職員)を配置し、栄養業務連絡会議や食生活支援担当者等研修会へ出席。 栄養業務連絡会議 1回出席 食生活支援担当者等研修会 2回出席 ・食事を提供するボランティアへの衛生講座を実施し、食育を担う人材育成・ネットワークづくりを行う。各ミニデイサービス実施日に出向き食のボランティアと一緒に調理し、食の衛生講習会を実施した。 ・ミニデイ等の食のボランティアの衛生講習会 32回 延252人 ・食のソムリエ定例会 0回 ※新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため	食育を担う人材(ボランティア)の育成、支援を行うことができた。 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、開催予定の事業を一部中止および規模を縮小して行ったため、昨年度の実績より回数が減少した。	食事を提供するボランティアへ感染症対策を含めた内容の指導を組み込み対応していく必要がある。 常勤職員の管理栄養士がいないため、他部署の管理栄養士との連携に積極的に努め、相談しやすい関係づくり、研修会による知識の習得をしていく。	方向性	継続	高齢期の食生活、身体変化等の特性を意識した取り組みをしていく必要があるため。
				実施目標	管理栄養士を対象とした研修に参加していく。	目標値	-			
<b>3-(3)⑩食育に関するホームページの充実</b>  本市の食育に関する情報をホームページ等で提供していきます。	こども家庭支援課	成人	本市の食育事業の参加者の募集や周知のため、適時ホームページを作成、更新し、食育の情報提供に努める。	ホームページを作成、更新し、食育に関する情報を提供する。	・食育事業の参加者の募集や周知のため、ホームページを作成、更新し、食育の情報提供を行った。 ・ポンチーヌの食育のうたホームページへのアクセス件数は708件	食育講演会等様々な食育事業や食育に関する情報を掲載し、周知に努めた。	【課題】 多くの方に食育情報を提供できるよう、見やすいホームページの掲載をしていく。  【対策】 内容を整理し、作成、更新していく。	方向性	継続	
				実施目標	ホームページを作成、更新し、食育に関する情報提供の充実を図る。	目標値	-			

「第2次はだの生涯元気プラン(秦野市食育推進計画)」の目標値の達成状況

資料3

施策の方向性	指標	策定時	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	目標値	令和2年度達成状況	施策評価	計画の総合評価	実績値の把握方法	神奈川県目標値	国目標値	
<b>基本目標1：楽しく食べて健康なからだをつくります～生涯食育の推進～</b>															
(1)規則正しい食習慣の向上	1 朝食欠食の割合	3歳児	3.3%	3.0%	3.7%	2.8%	3.6%	2.4%	0%	前年度より1.2%減少し、目標に近づいた	C	令和2年度では減少したが、微増している年もあり横ばいの傾向である。目標値までの十分な成果が得られなかったためCとした。	3才6か月児健康診査問診票集計	-	0%
		小学生	5.5%	5.8%	6.4%	6.8%	6.1%	調査中止	0%	全国学力学習状況調査中止	C	令和元年度では減少したが、平成28年度よりも微増している。目標値までの十分な成果が得られなかったためCとした。	全国学力学習状況調査	0%に近づける	0%
		中学生	8.6%	9.2%	11.5%	12.9%	10.7%	調査中止	0%	全国学力学習状況調査中止	C	令和元年度では減少したが、平成28年度よりも微増している。目標値達成までの十分な成果が得られなかったためCとした。	全国学力学習状況調査	0%に近づける	0%
		20～30歳代男性	10.2%	-	-	12.5%	-	20.5%	10%以下	前回調査より8%増加し、目標から遠ざかった	C	平成30年度と比較しても令和2年度では増加しており、目標から遠ざかった。目標値達成までの十分な成果が得られなかったためCとした。	市民Webアンケート調査	15%以下	15%以下
	2 栄養バランスをそろえた食事をしている人の割合(主食、主菜、副菜をそろえた食事をしている人の割合)	63.3%	-	-	60.3%	-	62.8%	80.0%	80.0%	前回調査と比較して2.5%増加し、目標に近づいた	B	令和2年度では増加しており、概ね推進できたためBとした。	市民Webアンケート調査	健康的な食事内容を心がけている県民の割合:90%以上	栄養バランス等に配慮した食生活を送っている国民の割合:60%以上
(2)食を通じた健康意識の向上	3 BMIの区分が正常な人の割合	男性70.0% 女性68.8%	男性69.2% 女性69.9%	男性68.3% 女性70.2%	男性67.3% 女性69.2%	男性67.0% 女性67.6%	男性65.6% 女性67.8%	男性75.5% 女性70.0%	前年度と比較して男性は1.4%減少し、女性は0.2%増加した	男性B 女性A	男性の数値はやや減少しているが、概ね推進できたためBとした。女性は増加もみられ、推進できたためAとした。	秦野市健康診査結果	適切な食事、運動等を継続的に実践している県民の割合:50%以上	適正体重を維持している人の割合:50%以上	
	4 低出生体重児の出生割合	10.4%	-	10.9% (H28年度)	10.9% (H29年度)	8.7% (H30年度)	未確定	減少	(平成30年度分が確定)平成29年度より2.2%減少し、目標を達成した	A	年々減少傾向であり、推進できたためAとした。	衛生統計年報	-	(健やか親子21、健康日本21の目標値)	
(3)食品の安全性の確保	5 食品を選ぶとき、安全性を意識して購入する人の割合	32.8%	-	-	26.8%	-	60.0%	90%以上	前回調査と比較して33.2%増加し、目標に近づいた	C	令和2年度では増加したが、目標値達成までの十分な成果が得られなかったためCとした。	市民Webアンケート調査	安全性に関する基礎的知識を持っている県民の割合:90%以上	安全性に関する基礎的知識を持っている国民の割合:90%以上	
<b>基本目標2：食の大切さを実感し、豊かなころを育みます～共食の推進～</b>															
(1)食を通じたコミュニケーションの確保	6 共食の認知度(19日は食育の日)	28.0%	-	42.5%	29.6%	44.0%	35.0%	80.0%	前年度と比較して9%減少し、目標から遠ざかった	C	推進したが令和2年度では減少しており、目標値達成までの十分な成果が得られなかったためCとした。	親子食育推進事業等アンケート	朝食又は夕食を家族と一緒に食べる「共食」の回数	朝食又は夕食を家族と一緒に食べる「共食」の回数	
(2)食に関する様々な体験の充実	7 学校給食における地場産物を使用する割合	31.5%	28.6%	28.7%	31.5%	30.7%	28.3%	33.0%	前年度と比較して2.4%減少し、目標から遠ざかった	A	令和2年度は減少しているが、推進できたためAとした。	神奈川県学校給食調査	30%以上	30%以上	
(3)食の伝統技術や文化の継承	8 食育に関心がある人の割合	74.7%	-	-	72.3%	-	66.8%	90%以上	前回調査と比較して5.5%減少し、目標から遠ざかった	B	令和2年度では減少したが、概ね推進できたためBとした。	市民Webアンケート調査	90%以上	90%以上	
<b>基本目標3：自然を大切に、活力ある暮らしをみんなでつくります～食でつなぐまちづくり～</b>															
(1)地産地消の推進	9 体験型農業の拡充(観光農業など体験型農業の参加区画数)	250区画	303区画	350区画	360区画	344区画	0区画	300区画 →R1修正: 400区画	新型コロナウイルス拡大防止のため事業中止	B	令和2年度では事業の中止となったが、5年間では概ね推進できたためBとした。	秦野市都市農業振興計画調査	-	農林漁業体験を経験した国民の割合30%以上	
(2)食料生産における環境への配慮	10 市民1人1日あたりのごみ排出量(資源物を除く)	689.0g	692.2g	676g	653g	613g	622g	636.3g	前年度より微増したが、目標値を達成した	A	減少傾向であり、推進でき目標値を達成したためAとした。	秦野市ごみ処理基本計画	-	-	
	11 学校給食の残食率	3.7%	2.7%	2.9%	2.5%	2.2%	2.7%	5% →R1修正: 3.5%	前年度より微増したが、目標値を達成した	A	令和2年度では微増したが、推進でき目標値を達成したためAとした。	神奈川県学校給食報告書における残食率	5.0%以下	-	
(3)食育を担う人材の確保・育成・ネットワークづくりの推進	12 食育を担うボランティアの活動回数	986回	750回	695回	818回	※1,128回	※631回	1,050回	新型コロナウイルス拡大防止による事業中止等のため活動回数が減少し、目標から遠ざかった	B	令和2年度では減少したが、5年間では概ね推進できたためBとした。	活動実績数(食生活改善推進団体、※デイサービスボランティア、子ども食堂)	食育の推進に関わるボランティアの数6,500人以上	食育の推進に関わるボランティアの数37万人以上	

施策評価	
A	推進できた(達成度90%以上)
B	概ね推進できた(達成率70%以上)
C	推進したが、成果が得られなかった
D	未着手、推進できなかった

※(1)1朝食欠食の割合については、目標値が0%であるため、上記の評価指標には含めない